

富山県福光町

**梅原胡摩堂遺跡Ⅲ
梅原出村遺跡群Ⅲ**

1999年3月

福光町教育委員会



梅原胡摩堂遺跡19地区 捜立柱建物跡

序

福光町の東部に位置する北山田地区は山田川と大井川にはさまれた水田地帯であります。東海北陸自動車道関連の発掘調査等で、縄文時代から近世までの様々な遺跡が発見され、多くの歴史遺産が埋蔵されていることがわかりました。

今回の調査は、県営ほ場整備事業（梅原地区）の実施に伴う梅原胡摩堂遺跡、梅原出村Ⅲ遺跡の発掘調査です。当地区におけるほ場整備事業関連の遺跡発掘調査は平成2年から継続していますが、遺跡の大半は盛土により保存し、用排水路用地及び一部の水田削平部分について本調査を実施してきました。

今年度調査では、古代の自然流路、中世前半の掘立柱建物、畝状遺構、中世後半の作業場であった堅穴状土坑、区画溝などを確認しました。また縄文土器、打製石斧、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁などの縄文、古代、中世期の遺物が多く出土しました。本書は、その調査結果をまとめたものです。郷土の歴史の解明や学術研究等に活用していただければ幸いです。

この調査の実施にあたり、富山県埋蔵文化財センター・福光町シルバーパートナーメンバー・富山県農林水産部・ほ場整備事業梅原地区委員会を始め、地元住民の方々に多大なご協力を賜りましたことに対し、深く感謝するものであります。

平成11年3月

福光町教育委員会
教育長 石崎栄一

例 言

- 本書は、県営低コスト化水田農業大区画は場整備事業（梅原地区）に伴う富山県福光町梅原胡摩堂遺跡、梅原出村Ⅲ遺跡の発掘調査概要である。調査は、平成10年7月8日から同年11月30日までである。梅原胡摩堂遺跡6か所の調査面積はあわせて1,937m²、梅原出村Ⅲ遺跡の調査面積は80m²である。
- 調査は、富山県農林水産部の委託を受け、福光町教育委員会が実施した。地元負担金については、福光町教育委員会が国庫補助金・県費補助金を受けた。
- 調査事務局は福光町教育委員会生涯学習課におき、文化係長森田智之、文化係主任佐々木隆が調査事務を担当し、生涯学習課長西村勝三が総括した。調査担当及び本書の執筆は生涯学習課主任佐藤聖子、深田亞紀が行った。
- 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々の協力・助言があった。記して謝意を表する。

大平奈央子・久々忠義・神保孝造・太嶋勇・高橋真実・林敏三・宮崎順一郎・宮田進一
吉田敏信
(敬称略・五十音順)
- 本書で使用した方位は真北である。土層の観察には、小出正忠・竹原秀雄編著1967『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社を用いた。
- 調査参加者は次の通りである。

井口富士雄・井口義雄・井口良吉・奥野豊次・北島正雄・棚田俊雄・棚田正男・中村俊雄
溝口外雄・溝口日出夫・宮塚久一・山田善之・湯浅三郎・荒井とよ・井口範子・大井川あや子
大井川桂子・大井川花枝・大島笑子・片田敏子・大門そと・中田すみ子・橋本華子・水口浜子
溝口秋子・溝口あさ子・森きみ子・森田うめ子・山田きみ子・山道文子・湯浅とみ(現地作業員)
木下真由美・西川和美・安田富子(遺物整理作業)

目 次

| | | | |
|------------------------------------|-------|-----------------------------------|-------|
| I 位置と環境 | 1 | 第11図 20地区の遺構 | 20 |
| 第1図 位置と周辺の遺跡 | 1 | 第12~13図 18地区の遺物(1)~(2) | 21・22 |
| II 調査に至る経過 | 2 | 第14~15図 13地区的遺物(1)~(2) | 23・24 |
| 第1表 遺跡の概要 | 2 | 第16図 19地区的遺物 | 25 |
| 第2図 遺跡の範囲と調査区位置図 | 3 | 第17図 20地区的遺物 | 26 |
| III 調査の概要 | 4 | 第18図 21・出村Ⅲ16地区的遺物 | 27 |
| 1. 調査の経過 | 4 | 図版1~図版2 18地区的遺構(1)~(2) | |
| 2. 調査方法 | 4 | 図版3 13地区的遺構 | |
| 3. 18地区的概要 | 4 | 図版4 19・20地区的遺構 | |
| 4. 13地区的概要 | 6 | 図版5 19地区的遺構 | |
| 第3図 13地区的基本順序 | 6 | 図版6 20地区的遺構 | |
| 5. 19地区的概要 | 7 | 図版7 21地区的遺構 | |
| 第4図 19地区的基本順序 | 7 | 図版8 22地区・出村Ⅲ遺跡16地区的遺構 | |
| 6. 20地区的概要 | 9 | 図版9~図版12 18地区出土遺物(1)~(4) | |
| 7. 21地区的概要 | 10 | 図版13~図版14 13地区出土遺物(1)~(2) | |
| 8. 22地区的概要 | 10 | 図版15 19地区出土遺物 | |
| 9. 出村Ⅲ遺跡16地区的概要 | 11 | 図版16 20地区出土遺物 | |
| 第5図 地形と区割 | 11 | 図版17 21・22・出村Ⅲ遺跡16地区出土遺物 報告書抄録 | |
| IV まとめ | 11・12 | | |
| 参考文献 | 12 | | |
| 第6図 地形と各調査区割 | 13・14 | 付図1 梅原胡摩堂遺跡18地区・遺構配置図 | |
| 第7図 18地区的遺構(1) | 15 | 付図2 梅原胡摩堂遺跡13地区・遺構配置図 | |
| 第8図 18地区(2)・21・22地区・ 出村Ⅲ16地区的遺構 | 16 | 付図3 梅原胡摩堂遺跡19・20地区・遺構配置図 | |
| 第9図 19地区的遺構 | 17・18 | 付図4 梅原胡摩堂遺跡21地区・遺構配置図 | |
| 第10図 13地区的遺構 | 19 | 付図5 梅原胡摩堂遺跡22地区・遺構配置図 | |
| | | 付図6 梅原出村Ⅲ遺跡16地区・遺構配置図 | |

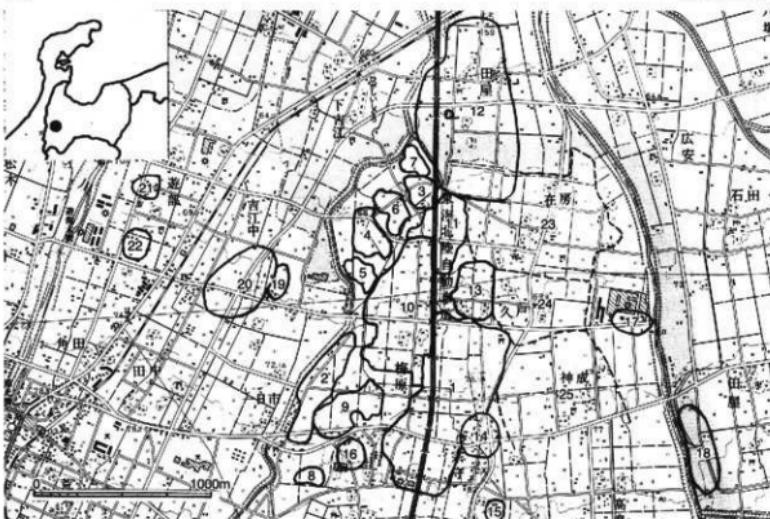
I 位置と環境

富山県福光町は、石川県との県境をなす富山県の南西部端に位置する。町の西側から南側にかけては、養老三年（719年）、泰澄大師によって開山されたといわれる雲峰医王山をはじめとするなだらかな山脈が連なる。上平村と接する南側に位置する大門山に源を発する小矢部川が、町の中心部を南北に貫流し、その東を流れる山田川とともに、町の東北部から北に向かって広がる砺波平野を形成している。

梅原胡摩堂遺跡は、小矢部川の支流である大井川と山田川に挟まれた河岸段丘上に位置する。標高70m前後を測る当遺跡の周囲には、梅原安丸遺跡群、梅原加賀坊遺跡、梅原出村遺跡群、梅原上村遺跡、梅原落戸遺跡、田尻遺跡、久戸遺跡が密集している。このうち、梅原安丸遺跡、梅原加賀坊遺跡、田尻遺跡、久戸遺跡は、東海北陸自動車道を建設する際発掘調査が行われ、12世紀中頃から18世紀にかけての大集落跡が発見された〔富文振1994〕。南後方にうずら山遺跡、宗守遺跡、竹林Ⅰ遺跡、竹林Ⅱ遺跡、東殿遺跡、徳成遺跡などの縄文時代を中心とした遺跡が存在する。また梅原胡摩堂遺跡からは弥生時代中期の土器・管玉・石錐が出土し、梅原安丸Ⅲ遺跡では古墳時代の堅穴住居跡1棟を検出している。

文献資料では、古代には福光町の一部が砺波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上村と呼ばれる官倉が置かれていたことが知られる。11世紀には円宗寺領石黒庄が成立し、当地域はそのうちの山田郷の一部に比定される。15世紀には、梅原地内に瑞泉寺の分家である梅原坊があつた。

（深田亜紀）



第1図 位置と周辺の遺跡

1. 梅原胡摩堂遺跡
2. 梅原出村Ⅲ遺跡
3. 梅原安丸遺跡
4. 梅原安丸Ⅱ遺跡
5. 梅原安丸Ⅲ遺跡
6. 梅原安丸Ⅳ遺跡
7. 梅原安丸Ⅴ遺跡
8. 梅原出村Ⅱ遺跡
9. 梅原上村遺跡
10. 梅原落戸遺跡
11. 梅原加賀坊遺跡
12. 田尻遺跡
13. 久戸遺跡
14. 宗守遺跡
15. 宗守城跡・宗守寺屋敷遺跡
16. うずら山遺跡
17. 久戸東遺跡
18. 田屋川原古戦場
19. 田中遺跡
20. 仏道寺遺跡
21. 遊部城跡
22. 常楽寺跡
23. 在房遺跡
24. 久戸Ⅱ遺跡
25. 神成遺跡

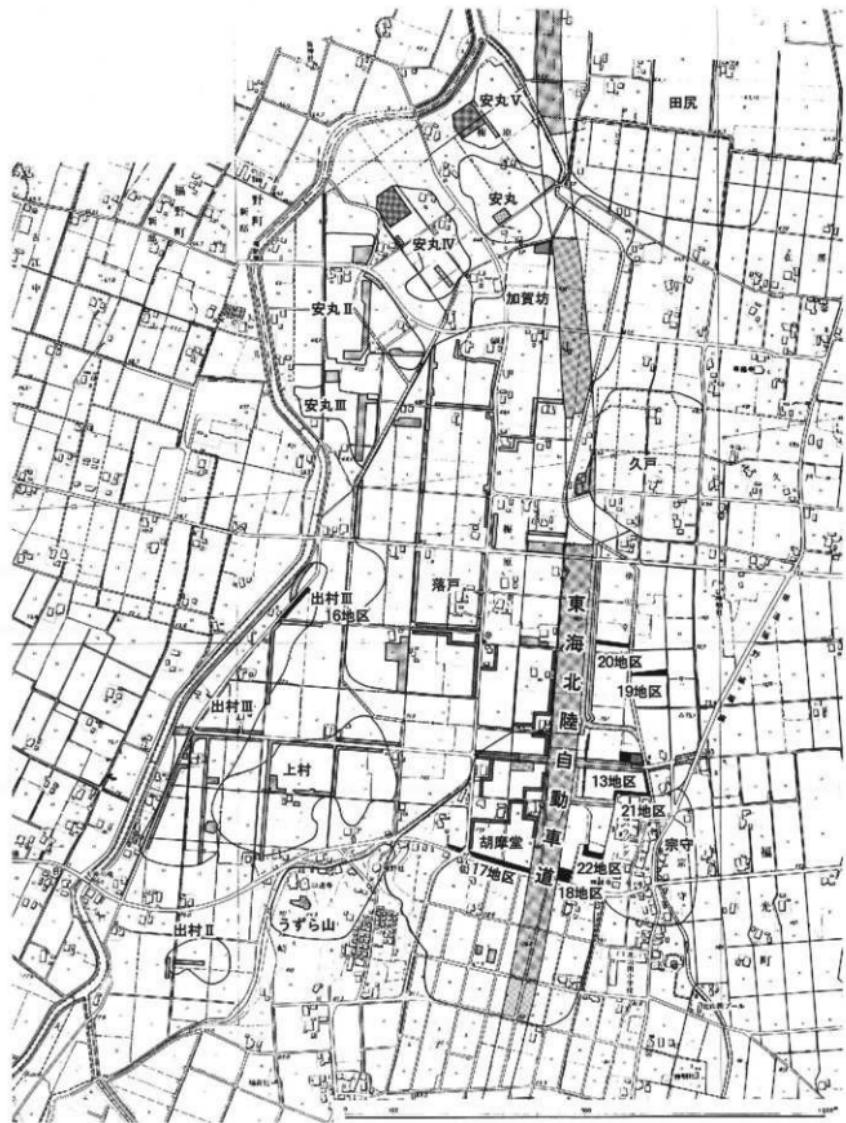
II 調査に至る経過

平成元年（1989年）、21世紀に向けての大型農業に対応するため、遺跡の所在する梅原地区において「低コスト化水田農業大区画は場整備事業計画」が策定された。この事業は、平成2年度から9年度を事業年度とし、梅原地区93haを対象とする計画であった。しかし、東海北陸自動車道建設に伴い遺跡の発掘調査がすでに実施されており、計画地内においても遺跡の広がりが予想された。この事から、町教育委員会は、県埋蔵文化財センターより調査員の派遣を受けて、平成元年度に計画地内の20haで、2年度には残りの73haで遺跡分布調査を実施し、広範囲において遺物の散布地を確認した。さらに、同2年度には国庫補助を受けての試掘調査を実施。遺跡の範囲確認を行ったところ、遺跡の保存状況が良好であった事から、県農地林務部・県教育委員会・地元土地改良区と遺跡の保護措置について協議を重ねた結果、遺跡の大半は盛土を行う事で水田下に保存し、一部の面工事・農道建設・用排水路部分について本調査を実施する事となった。以降、毎年度試掘調査と本調査を継続しており、試掘調査については平成7年度で調査を完了した【福光町教育委員会1991・1992・1993・1994・1995・1996・1997・1998】。これまでの調査面積、遺跡の内容は次のとおりである。（佐藤聖子）

| 試掘調査対象面積 | 本調査面積 | 本調査対象遺跡 |
|----------|------------------------|---|
| 平成2年度 | 約164,000m ² | 2,186m ² 梅原安丸II遺跡・梅原安丸III遺跡・梅原安丸IV遺跡・梅原安丸V遺跡 |
| 平成3年度 | 約124,500m ² | 5,238m ² 梅原安丸遺跡・梅原安丸II遺跡・梅原安丸III遺跡 |
| 平成4年度 | 約145,000m ² | 4,700m ² 梅原上村遺跡・梅原出村II遺跡・梅原出村III遺跡 |
| 平成5年度 | 約116,000m ² | 3,900m ² 梅原落戸遺跡・梅原出村III遺跡・梅原上村遺跡 |
| 平成6年度 | 約130,000m ² | 3,450m ² 梅原落戸遺跡 |
| 平成7年度 | 約110,000m ² | 3,235m ² 梅原落戸遺跡 |
| 平成8年度 | | 4,590m ² 梅原加賀坊遺跡・梅原胡摩堂遺跡・梅原落戸遺跡・梅原安丸V遺跡 |
| 平成9年度 | | 3,145m ² 梅原胡摩堂遺跡 |

第1表 遺跡の概要（NO.は第1図の遺跡番号と対応する）

| NO. | 遺跡名 | 所属時代 | 発見された構造 | 発見された遺物 |
|-----|---------|-------------------------|--|--|
| 1 | 梅原胡摩堂 | 縄文、弥生、古代、中世 近世 | 壇跡、掘立柱建物、溝、堀 堅穴、井戸 | 縄文土器、打製石斧、土師器、須恵器、中世土師器 珠洲、青磁、白磁、越前、越中瓶戸、瀬戸美濃、石臼 |
| 2 | 梅原出村III | 縄文、弥生、古墳、古代 中世、近世、近代 | 堅穴住居跡、柱穴、溝、 井戸 | 縄文土器、石器、土師器、須恵器、土師質土器、珠洲 越前、陶磁器、銅鏡 |
| 3 | 梅原安丸 | 縄文、中世、近世 | 掘立柱建物柱穴、火、溝、 堅穴井戸、泡吹遺物 | 土師質土器、珠洲、磁器、漆器、五輪塔、石臼、下駄 |
| 4 | 梅原安丸II | 縄文、古代、中世、近世 | 掘立柱建物柱穴、溝、井戸 上器溝まり | 縄文土器、石器、須恵器、漆器柄、土師質土器、珠洲 陶磁器 |
| 5 | 梅原安丸III | 縄文、古墳、古代、中世、 近世 | 堅穴住居跡(古墳)、柱穴 掘立柱建物柱穴、溝、井戸 | 縄文土器、石器、須恵器、土師質土器、珠洲、陶磁器 |
| 6 | 梅原安丸IV | 縄文、古代、中世、近世 | 掘立柱建物柱穴、火、溝、 堅穴状遺構、井戸 | 縄文土器、須恵器、土師質土器、珠洲、陶磁器 |
| 7 | 梅原安丸V | 縄文、古代、中世、近世 | 掘立柱建物柱穴、溝、井戸 川跡、船着き場、水田跡 | 縄文土器、打製石斧、須恵器、中世土師器、珠洲、 白磁、瓶戸美濃、土師質土器、門壁器、土鉢、木製品 |
| 8 | 梅原出村II | 縄文、古代、中世 | 柱穴、火、溝 | 縄文土器、石器、須恵器、土師質土器、珠洲、銅鏡 |
| 9 | 梅原上村 | 縄文、古代～中世、近世 | 柱穴、火、溝、遺物包含層 | 縄文土器、石器、土師器、須恵器、珠洲、越前、八尾 陶磁器、石臼、占线 |
| 10 | 梅原落戸# | 縄文、弥生、古代、中世 近世 | 川、火、遺物包含層(縄文) 掘立柱建物(官舍倉)、造 土坑、溝、 | 縄文土器、石器、弥生土器、内裏土器(古墳)、 土師器、須恵器、上製品、銀洋、馬鹿、炭化米、種子 骨片、木製品、土師質土器、珠洲、常滑、越前、 瀬戸美濃、輸入陶磁器、製塙土器、火鉢、羽口、銅貨 |
| 11 | 梅原加賀坊 | 縄文、古代、中世、近世 | 溝、土坑 | 縄文土器、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、陶器 |



第2図 遺跡の範囲と調査区位置図 (S = 1/10,000)

III 調査の概要

1. 調査の概要（第2図）

10年度調査は、田面削平工事に伴う18地区：480 m²・13地区：400 m²・19地区：360 m²・20地区：380 m²、用排水路付け替え工事に伴う21地区：158 m²、出村Ⅲ遺跡16地区：80m²、排水路工事による水路仮回し部分22地区：159 m²である。出村Ⅲ遺跡16地区は遺跡北寄りに、胡摩堂遺跡の各調査地区は、遺跡中央東寄りに位置する。なお、13地区については、8年度に東側487 m²の調査を終えているが、残り西側400 m²は8年度中に調査を終える事ができず、今年度に繰り越すこととなった。22地区については、重機で耕作土の除去を行っている際、9年度は場整備工事により、調査区西側から北側部分において深いところで約1.5 mの山砂が盛られていることがわかった。これでは、発掘作業中に崩落する危険性が高く、あくまで水路の仮回し部分であり、試掘調査によると旧橋本川跡にあたる部分でもあったことから、この部分については仮回しに必要な掘削深度以下には下げないこととした。

2. 調査の方法

調査は、まず重機で耕作土などの無遺物層の除去を行った。その後、調査区に合わせおおよその東西方向・南北方向に基準杭を10mごとに設置し、調査区割を行った。区割は、南から北にX軸、西から東にY軸とし、2 mを一区画としてアラビア数字でその位置を示した。

包含層掘削・遺構検出・遺構掘削等は調査員及び作業員が行い、遺構平面図の作成は、ラジコンヘリコプターにより撮影した写真から図化した。

3. 18地区の概要

(1) 地形と層序（第6図）

18地区は標高約77.7mである。東海北陸自動車道東側道に隣接する。地形は、南から北に向かって緩やかに傾斜している。調査区部分は、旧ほ場整備事業により削平をうけており、地表から地山面（遺構確認面）までの深さは、15～20cmの耕作土しか存在しなかった。地山は、黄褐色砂礫層であり、中世の遺構はこの層に掘り込んでいた。

(2) 遺構（第7図・第8図、付図1、図版1・2）

中世後半（15世紀～17世紀）の土坑33・井戸23・溝11・ピット群等がある。

A. 中世

土坑・SK09～11周辺（第7図、図版1・2）

調査区南西、X 1～X 7、Y 1～Y 5部分に位置する。5つの堅穴状土坑が切り合っている。

SK09は、南北方向約3.6 m × 東西方向4.8 m以上、深さ約30cmを測る、長方形の土坑である。北側の壁の立ち上がりは、緩やかである。西側と南側で、SK10を切っている。埋土は、やや粘質の黒褐色土が主で、床面に黄褐色砂礫層が帯状にはいる。出土遺物には、珠洲・甕の体部破片がある。

SK10は、北側をSK09に切られ南側をSK11に切られているため、全容はわからないが、南北方向3.2 m以上 × 東西方向2.4 m以上、深さ20～40cmを測る。埋土は黒褐色土に暗オリーブ褐色砂質土が混ざったものである。珠洲・甕体部破片、土師質土器・すり鉢が出土している。SK09、10とも床面は平坦で、切り合っている箇所で段差はない。切合関係から、SK09は16世紀前半、SK10は15世紀後半から16世紀初頭にかけてのものとみられる。

S K11は、1辺約3.5 m、深さ約40cmの方形土坑である。壁の立ち上がる角度は急で、しっかりとしており、床面は平坦である。北側でSK10を、東側でSK22を切っている。また、南西隅でSE08に切られている。埋土は上面から下に約30cm部分には、黒褐色粘質土が堆積しているが、床面近くには黒褐色の砂礫層がある。南側にSE09が位置する。出土遺物には、16世紀前半頃の中世土師器・皿、伊万里・椀がある。SK22は、西側でSK11に切られている。南北方向約3.3m×東西方向2.4m以上、深さ30cmを測る。埋土は、やや粘質の黒褐色土である。出土遺物は無い。

S K18・19周辺（第8図、図版1・2）

調査区中央南寄り、X 1～X 7、Y 5～Y 8に位置する。

SK18は南側をSK19に、北側をSK17に切られ、東側を暗渠が南北に通過している。そのうえ、西側はSK10との切り合いがはっきりせず、全容がつかみづらいが、南北3.7 m以上×東西5m以上、深さ35～40cmになるとみられる。埋土は黒褐色粘質土が主だが、土坑中央部分に上面20cmに黄色褐色土が堆積している。遺構を検出している際に、土坑中央南北約3.3 mにわたって石列が1列出土した。石列を形成している石は、10cmから大きいもので40～50cmと様々である。このなかには、石臼・下臼を転用しているものが2つあった。東側に面を合わせて配置している。近世上台建物の類か。出土遺物には、SK19は、南北4.5 m×東西6 m、深さ約40cmを測る。埋土は、黒褐色土に黄褐色土が少量混じったものである。井戸4基（SE13～16）を伴う。井戸は直径80cm～1mの円形の素掘井戸である。床面はやや湾曲している。出土遺物には、珠洲・壺の体部破片、14世紀後半にあたる青磁・椀、土師質土器・すり鉢がある。

その他の遺構

井戸、SE07はX 2、Y 4.5部分に位置する。直径約1.5 mの精円に近い形の素掘井戸である。掘方には、直径40～60cmの石を丸く組んである。しかし、井戸内部には石組は確認しなかった。埋土は、黒褐色砂礫で5～10cm大の小石が多く混じるものである。出土遺物には、中世土師器・皿破片、珠洲・壺体部破片、肩津、石臼、坩埚がある。

(3) 遺物（第12・13図、図版9～12）

古代、中世のものが整理箱で15箱ある。

A. 古代

1は須恵器・高台杯である。包含層より出土したもので、8世紀後半にあたる。2（SK08）は須恵器・壺である。

B. 中世

SK06・08・11・14・16・18～20（3～17）

3（SK06）、6（SK11）は中世土師器・皿である。3は12世紀後半から13世紀前半、6は16世紀前半である。4・5（SK08）は瀬戸大皿、珠洲・壺の口縁部である。7（SK06）は、伊万里・椀である。8・9（SK14）は、白磁・皿、青磁・椀である。10・11（SK16）は、白磁・皿、珠洲・壺である。8・10は15世紀後半から16世紀、11はV～VI期にあたる。

13・14（SK19）は、青磁・椀、土師質土器・すり鉢である。13は14世紀後半である。15～17（SK20）は、珠洲・壺（V期）、土師質容器、坩埚である。

SE01・22、P54（18～21）

18（SE01）、21（P54）は中世土師器・皿である。18は15世紀後半から16世紀初頭、21は16世紀

前半にあたる。19・20（S E22）は越中瀬戸・皿、大皿である。

包含層（22～36）

22・23は珠洲・すり鉢である。24・25は珠洲・壺である。V～VI期にあたる。26・29は、瀬戸美濃・端反皿である。27は青磁・大皿である。28は瀬戸美濃・天目茶碗、30は瀬戸美濃・茶入れ、31は瀬戸美濃・丸皿である。32は越中瀬戸・すり鉢、33は越中瀬戸・皿、向付、34は瓦質土器・火鉢、35・36は上師質容器である。

石製品（37～40）

37（SK09）は石臼・上臼である。38（SK18）は石列に組み込まれた石臼・下臼である。39（SK20）は茶臼・上臼破片である。40（SK23）は茶臼・下臼である。
(佐藤聖子)

4. 13地区の概要

（1）地形と層序（第3図）

13地区は標高75mであり、東側に権現堂川が流れる。地形は、南側から北側に向かって緩やかに傾斜する。地表から地山面までの深さは10～60cmであり、層序は、①層：現代の耕作土、②層：旧耕作土または盛り土、③層：黒褐色土（古代・中世の包含層）、④層：褐色土（縄文の包含層）である。

（2）遺構（第10図、図版3、付図2）

古代の土坑3、溝4、島跡1、中世の掘立柱建物1、柵列1、土坑1、溝1、ピットがある。

A. 古代

S K05・06

調査区中央部分に位置する。SK05の深さは約10cmである。SK06は東西方向 3.8m×南北方向2.0m、深さ約70cmの楕円形の土坑であり、SK05を切っている。埋土は黄色粘質土（地山）が混じる黒色粘質土である。須恵器・杯A、須恵器・杯B蓋が出土している。

S D02・03

調査区東側に位置する。南から北へ流れていた自然流路と考えられ、SD03はSD02を切っている。SD02の幅は80cm、深さは約40cmである。埋土は黒色土にオリーブ褐色砂質土が交互に混ざる。須恵器・杯A、須恵器・杯B、須恵器・杯B蓋が出土している。SD03の南側では幅は2m、深さは約50cmである。調査区北側では流れが北西向きに変わっている、幅は9m、深さは約60cmである。埋土は黒色粘質土と暗灰黄色砂礫土が交互に層をなしており、砂礫層から大量の須恵器、土師器が出土している。時期は9世紀と考えられる。

S D05

調査区南側から北西端に位置する。幅は60cm、深さは約50cmであり、溝の方向は北から約30°西に振れる。埋土は黒褐色土であり、下層では黒褐色土とオリーブ褐色砂質土が交互に混ざっている。須恵器・杯Bが出土している。時期は8世紀末から9世紀初めと考えられる。

① 現代の耕作土

② 旧耕作土または盛り土

③ 黒褐色土（古代・中世）

④ 褐色土（縄文）

⑤ 黄色土（地山）

第3図 13地区の基本層序

B. 中世

S D 01

調査区北東に位置する。北部分が調査区外にあたるため全容は分からぬが、東西2間×南北2間以上の総柱建物であり、床面積は26m²以上である。棟方向は北に対し約25° 東へ振れる。柱穴の掘り方は35cm前後の円形を呈しており、深さは30~40cmである。埋土は黒褐色土である。時期は12世紀後半から13世紀と考えられる。

S D 04

調査区南西に位置している。調査区南側では南北方向であるが、調査区中央付近で90度西に曲っており、区画を形成する溝と考えられる。幅は約2.6m、深さは約1mである。埋土は暗オリーブ褐色粘質土と黒褐色粘質土が層をなす上層と、黒褐色粘質土と黄灰色砂質土が混じる下層に分かれる。上層からは須恵器、珠洲が、下層からは漆器椀、木製品が出土しており、時期は15世紀後半と考えられる。

(3) 遺物 (第14・15図、図版13・14)

古代と中世の遺物が出土した。

A. 古代

S K 05・06 (41・42)

41は須恵器・杯A、42は須恵器・杯B蓋である。

S D 03 (46~60) · S D 04 (61, 65~67) · S D 05 (62)

46~49は須恵器・杯A、50~53は須恵器・杯B、54・55は須恵器・杯B蓋である。56は須恵器・壺の口縁部、57・58は、須恵器・壺の頸部、59は須恵器・壺の底部である。60は須恵器・甕である。61は須恵器・杯B蓋である。65は土師器・甕の口縁部、66は土師器・皿B、67は土師器・椀である。62は須恵器・杯Bである。

包含層 (63・64)

63は須恵器・杯B、64は須恵器・円面鏡である。

B. 中世 (68~71)

S D 04

70は漆器椀である。71は加工木であり、まな板に転用したと考えられる。

包含層

68は中世土師器・皿である。69は珠洲・鉢である。

(深山彌紀)

5. 19地区の概要

(1) 地形と層序 (第4図)

19地区は標高約75mである。地形は東側から西側にむかって緩やかに傾斜している。地表から地山面までは30~40cmであり、層序は、①層；現代の耕作土、②層；黒褐色土（中世の包含層）、③層；黒色土（古代の包含層）、④層；褐色土（縄文の包含層）である。

① 現代の耕作土

② 黒褐色土（中世）

③ 黑色土（古代）

④ 褐色土（縄文）

⑤ 黄色土（地山）

第4図 19地区の基本層序

(2) 遺構 (第9図、図版4・5、付図3)

中世の掘立柱建物13棟、土坑1、溝1、ピットがある。掘立柱建物13棟は調査区中央から東側に集中しているが、いずれも調査区外にのびており、その全容は分からぬ。時期は12世紀中頃から、13世紀と考えられる。

S B01・S B02・S B03

S B01は南北2間×東西2間以上の総柱建物である。棟方向は北に対して約3°西へ振れ、床面積は16m²以上になる。S B02は南北2間以上×東西2間の総柱建物である。棟方向は真北であり、床面積は7m²以上になる。S B03は南北2間以上×東西6間の総柱建物である。棟方向は北に対して約2°東に振れ、床面積は37m²以上になる。柱穴の掘方は20~30cmの円形を呈し、深さは約20~35cmである。

S B04・S B06・S B07

S B04はS B06を切っている。S B06はS B07を切っている。S B04は南北2間以上×東西4間、06は南北3間以上×東西4間、07は南北2間以上×東西2間の総柱建物である。棟方向は、S B04・S B07は北に対して約2°西に振れる。S B06は北に対して約3°西に振れる。柱穴の掘方は20cm前後の円形を呈し、深さは約15~40cmである。埋土は暗オリーブ褐色土が黒褐色土に混ざる。S B04は暗オリーブ褐色土の混じりが少ない。

S B05・S B13

S B05はS B03~07と重なっているが、切り合はない。南北2間以上×東西3間の総柱建物である。棟方向は北に対して約2°西に振れ、床面積は20m²以上になる。S B13は南北2間以上×東西2間の総柱建物である。棟方向は北に対して約1°西に振れる。床面積は14m²以上になる。柱穴の掘方は20cm前後の円形を呈し、深さは約15~40cmである。

(3) 遺物 (第16図、図版15)

縄文時代、古代、中世のものが整理箱で3箱ある。

A. 縄文時代 (72~75)

72~74 (包含層) は打製石斧である。75 (包含層) は縄文土器である。

B. 古代 (76~78)

S B02

76は須恵器・杯B蓋である。

S B10

77は須恵器・杯Bである。

包含層

78は須恵器・壺の口縁部である。

C. 中世 (79~94)

S B04 (79~80)・S B06 (81)

79~81中世土師器・皿である。

包含層

82~90は中世土師器・皿である。91は珠洲・鉢である。92・93は青磁・楕、94は青磁・壺である。

(深田亜紀)

6. 20地区の概要

(1) 地形と層序

20地区は標高73mである。現は場整備事業に伴い昨年度に流れをかえた権現堂川が、調査区西側にある。地表から地表面までは30~50cmであり、層序は、①層：現代の耕作土、②層：黒褐色（中世の包含層）、③層：黒色土（古代の包含層）、④層：褐色土（縄文の包含層）である。

(2) 遺構（第11図、図版4・6、付図3）

中世の掘立柱建物3、溝12、ピットがある。

S B01・S B02

調査区の東よりに位置する。南側部分が調査区外にあたるため全容は分からない。棟方向はS B01が北から約18° 東に、S B02が約13° 東に振れる。柱穴の掘方は30cm前後の円形を呈しており、深さは20~30cmである。埋土は暗オリーブ褐色土が混じる黒色土である。

S B03

調査区中央に位置している。北側部分が調査区外にあたるため、全容は不明である。柱穴の掘方は30cmの円形を呈しており、深さは20~30cmである。埋土は黒褐色に、暗オリーブ褐色が混じる。

S D02

調査区中央に位置しており、S B03を切っている。幅は約 3.2m、深さは55cmである。埋土は黒褐色土に暗オリーブ褐色土が混ざる。須恵器・杯A、土師器・皿が出土している。時期は13世紀頃と考えられる。

S D03~08

調査区中央から東側にかけて位置する。3.2 ~3.3 mの等間隔で南北方向にのびる畝状遺構である。方向は北から約15° 東に幅は35~40cm、深さは10~17cm、埋土は黒色粘質土である。S D09・10を切っている。詳しい時期は不明である。

(3) 遺物（第17図、図版16）

縄文、古代、中世のものがある。

A. 縄文時代（95・97・99）

95（包含層）は打製石斧である。97（P 2）・99（包含層）は縄文土器である。

B. 古代（96・98・100 ~103）

S D02（96・100 ~101）

96は土師器・甕である。100 ~101 は須恵器・杯Aである。

包含層（98・103）

98は土師器・甕である。103は須恵器・甕である。

C. 中世（104 ~115）

遺構（104~108）

104（S B03）・105（焼土）・106（S D02）・107（S D10）・108（P 3）は中世土師器・皿である。

包含層（109~115）

109 ~110 は中世土師器・皿である。111 は土師器・柱状高台の皿である。112 は珠洲・すり鉢である。113 は白磁・合子である。114 は青磁・椀である。115 は瀬戸美濃・端反皿である。

（深田亜紀）

7. 21地区の概要

(1) 地形と層序 (第6図)

21地区は1m×158mの南北に細長い調査区である。標高約75.17～75.46mである。地形は、調査区南から北にむかってゆるやかに下降する。地表から地山面(遺構確認面)までの深さは、40～50cmで、層序は①層：耕作土、②層：黒褐色土(中世の包含層)、③層：黄褐色土(地山)である。

(2) 遺構 (第8図、付図4)

古代の溝1、中世の掘立柱建物1、溝2、土坑3、ピット群がある。

A. 古代溝・SD01 (第8図、図版7)

SD01は、調査区が屈曲するX11、Y38に位置する。南東から北西に向かってのびている。幅約1.3m、深さ10～25cmである。埋土はオリーブ黒色粘質土に砂質のものがやや混じる。須恵器・杯が出土している。

B. 中世 (第8図、図版7)

掘立柱建物・SB01 (第8図、図版7)

SB01は、調査区北寄り、X27～X31に位置する。南北に1列に並んだ柱穴4基のみ検出し、東西方向どちらに広がっているかは不明である。3間×1間以上である。棟方位は西に7°ふれる。掘方は円形で、直径20～30cmを測る。深さは約20cmである。埋土は、黒褐色粘質土に地山が少量混じたものである。出土遺物は無く、建物の時代特定は難しいが、13世紀から15世紀にかけてか。

土坑・SK02 (第8図、図版7)

SK02は、SB01・P4の北西1mに位置する。東側が調査区外に伸びている。東西方向約1m×南北方向90cm以上、深さ20～30cmを測る。方形状の土坑か。床面は2段になる。出土遺物には、古代土師器・鍋、中世土師器・皿がある。

(3) 遺物 (第18図、図版17)

古代、中世のものが整理箱で1箱である。

古代 (116～119)・中世 (120～122)

116・117(SD01)は須恵器の杯である。118・119(SK02)は土師器・鍋である。120・121・122(SK02)ともに非ロクロ中世土師器皿である。121は15世紀前半、120・122は16世紀前半にあたる。
(佐藤聖子)

8. 22地区の概要

(1) 地形と層序 (第6図)

22地区は標高約76.60mである。東から西に38mのびたところで、北に直角に曲がっている。地形は、調査区南から北にむかってゆるやかに下降する。地表から地山面(遺構確認面)までの深さは、50～80cmである。遺物包含層は、存在しない。

(2) 遺構 (第8図、付図5)

中世の溝2、土坑、ピットがある。SD02は、調査区東側、Y17部分に位置する南東から北西にのびる溝である。幅約1m、深さ約16cmである。埋土は、黒褐色砂質土である。

(3) 遺物 (図版17)

図示していないが、珠洲・すり鉢破片、青磁・椀の体部破片、唐津などが出土している。青磁は、SD01から出土し、その他の遺物は地山の直上で取上げた。
(佐藤聖子)

9. 出村Ⅲ遺跡16地区の概要

(1) 地形と層序 (第5図)

出村Ⅲ遺跡16地区は標高70mである。1m×80mの細長い調査区であり、西側に大井川が流れる。

地表から地山面までの深さは70cm～1mであり、層序は、①層：現代の耕作土、②層：黒褐色土

（古代・中世の包含層）、③層：褐色土（縄文の包含層）である。

(2) 遺構 (第8図、図版8、付図6)

縄文時代の土坑1、溝2、ピットがある。

SK01

調査区の中央付近に位置する。南北方向の幅は2.5m、深さ50cmであり、埋土は黒褐色土と暗灰黄色土と暗オリーブ褐色土が交互に層をなす。縄文土器が大量に出土した。

(3) 遺物 (第18図、図版17)

縄文土器、瀬戸美濃がある。

SK01(123～125)

123は縄文土器・浅鉢、124・125は縄文土器・深鉢の底部である。

包含層(126～129)

126は縄文土器・壺、127は縄文土器・器種不明、128は縄文土器・深鉢の底部である。129は瀬戸美濃・天目茶碗である。

(深田亜紀)



第5図 地形と区割 (s=1/2000)

IV まとめ

1. 梅原胡摩堂遺跡18地区については、作業場とみられる竪穴状土坑、井戸、また、近世土台建物遺構に似た形態の土坑を確認した。また、東海北陸自動車道閑闊調査で周辺が、鍛冶場関連の遺構とされているが、この地区においても、堀跡など閑闊遺物の出土があった。
2. 13地区では古代の川跡や、島跡、水路、15世紀後半の堀と考えられる区画溝を検出した。これらは古代の開発の様子・中世後半の町割りの様子を知る手がかりとなると言える。
3. 19地区では12～13世紀頃の掘立柱建物と多数の柱穴を発見したが、15世紀以降の遺物や遺構は確認しなかった。遺跡の東側では12～13世紀頃や12世紀以前の遺構が主体である可能性が高い。
4. 20地区は等間隔にならぶ6本の溝が発見された。12世紀、あるいは12世紀以前のものと考えられるが、溝と溝の間隔が広く、島跡とは異なる遺構であると考えられる。
5. 21地区では古代・中世の遺構が存在し、掘立柱建物などが周辺に広がっている可能性があるこ

とがわかった。

6. 22地区では中世期の遺構は存在するが、近辺の18地区や東海北陸自動車道下と違い、遺構の密度は薄いものだった。また、近辺の旧以連寺跡関連の遺構・遺物も確認できなかった。
7. 梅原出村III16地区では、1993年度に調査した15地区と同様に縄文土器の出土が多い。また遺跡の中央部や南側では古代、中世の遺構を確認しているが、北側では縄文時代の遺構が主体である可能性が高いことが分かった。
(佐藤聖子・深山亜紀)

参考文献

桂雷房1997『中近世の北陸』

財団法人 富山県文化振興財団1994『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺構編）』

財団法人 富山県文化振興財団1996『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』

福光町教育委員会1993『富山県福光町梅原出村遺跡群I・梅原上村遺跡群I』

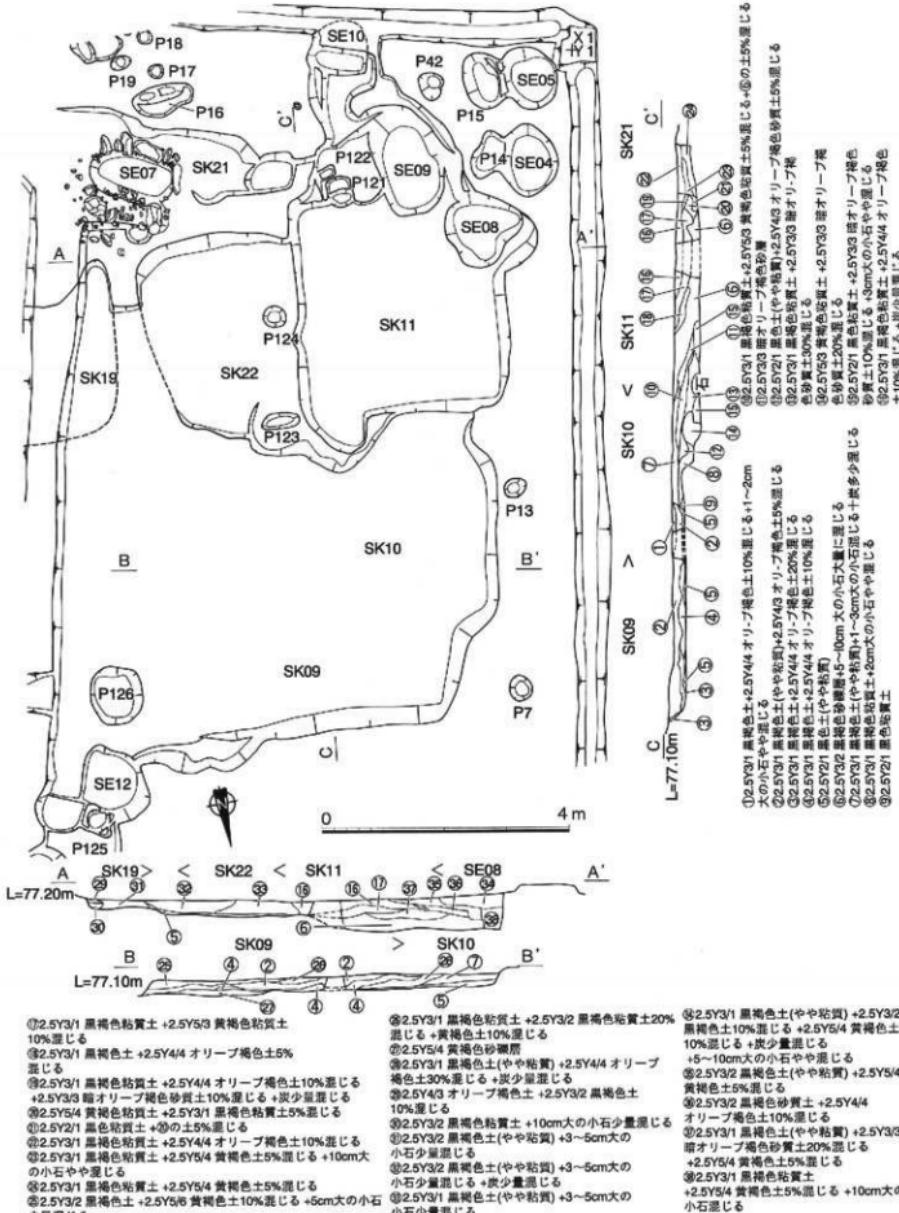
福光町教育委員会1994『富山県福光町梅原出村遺跡群II・梅原上村遺跡群II・梅原落戸遺跡群I』

福光町教育委員会1997『富山県福光町梅原加賀坊遺跡I・梅原胡摩堂遺跡群I・梅原落戸遺跡群IV
・梅原安丸遺跡群II』

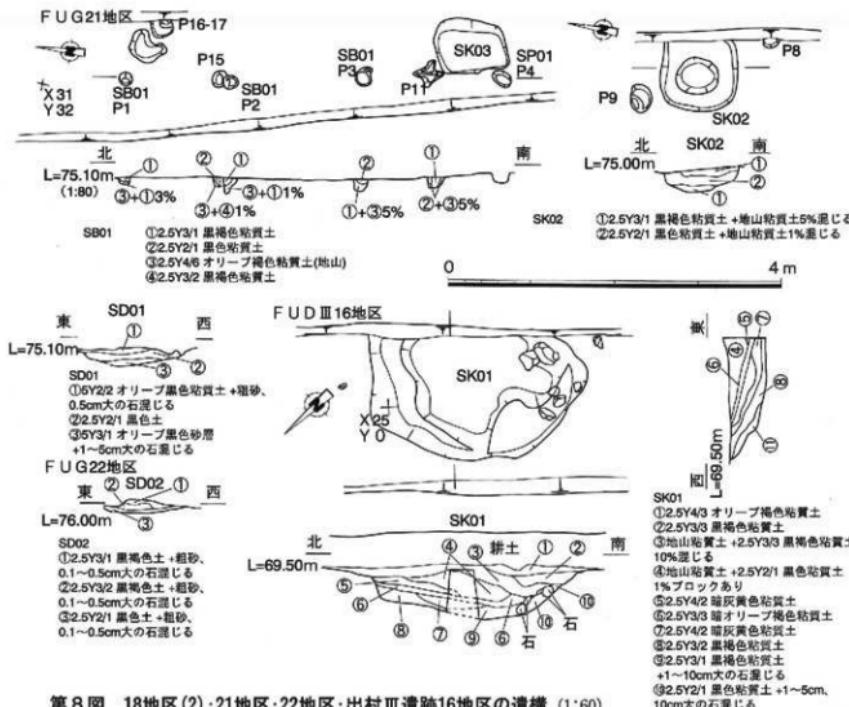
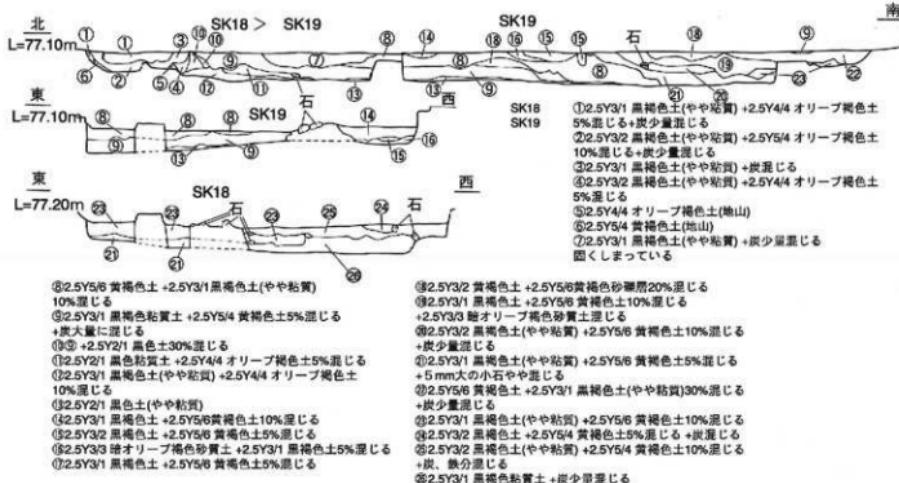
福光町教育委員会1998『富山県福光町梅原胡摩堂遺跡II』



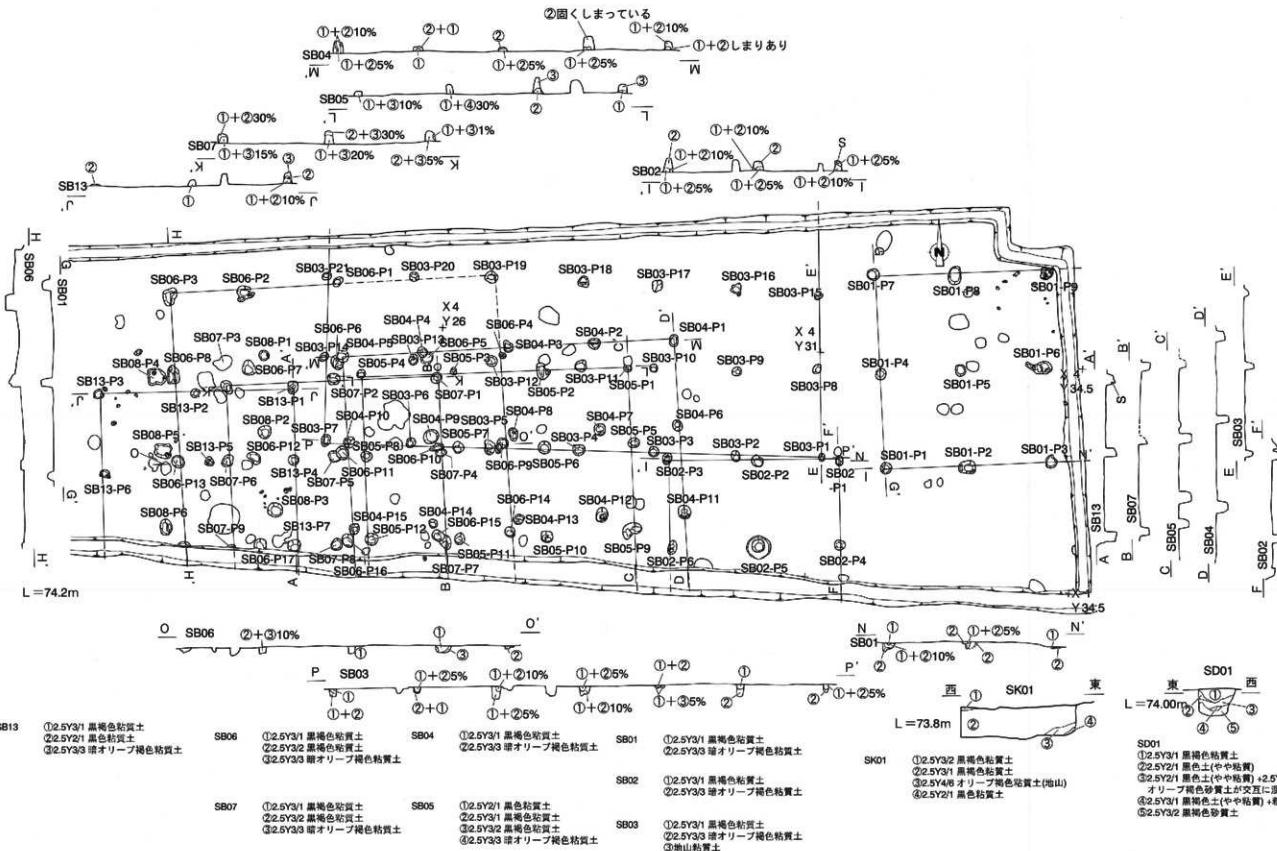
第6図 地形と各調査区割 (1/2,000)



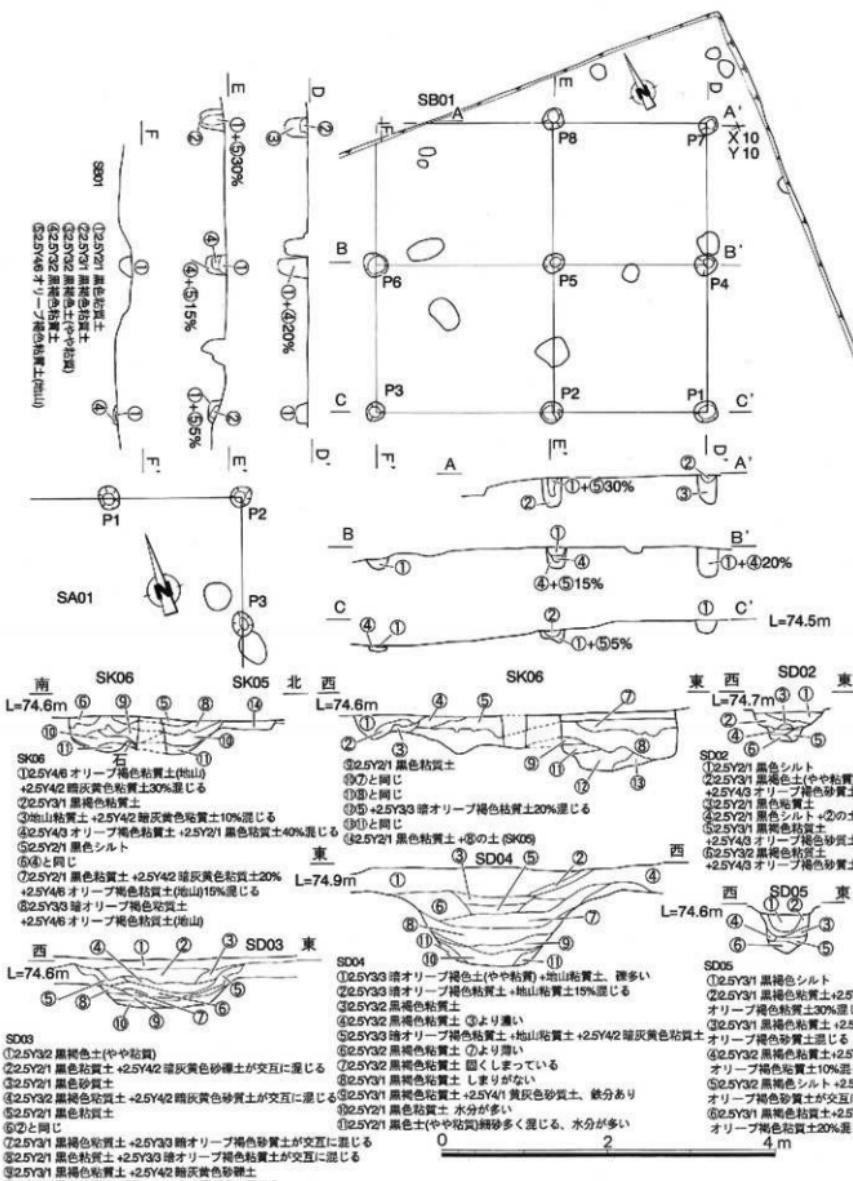
第7図 18地区の構造(1) (1:80)



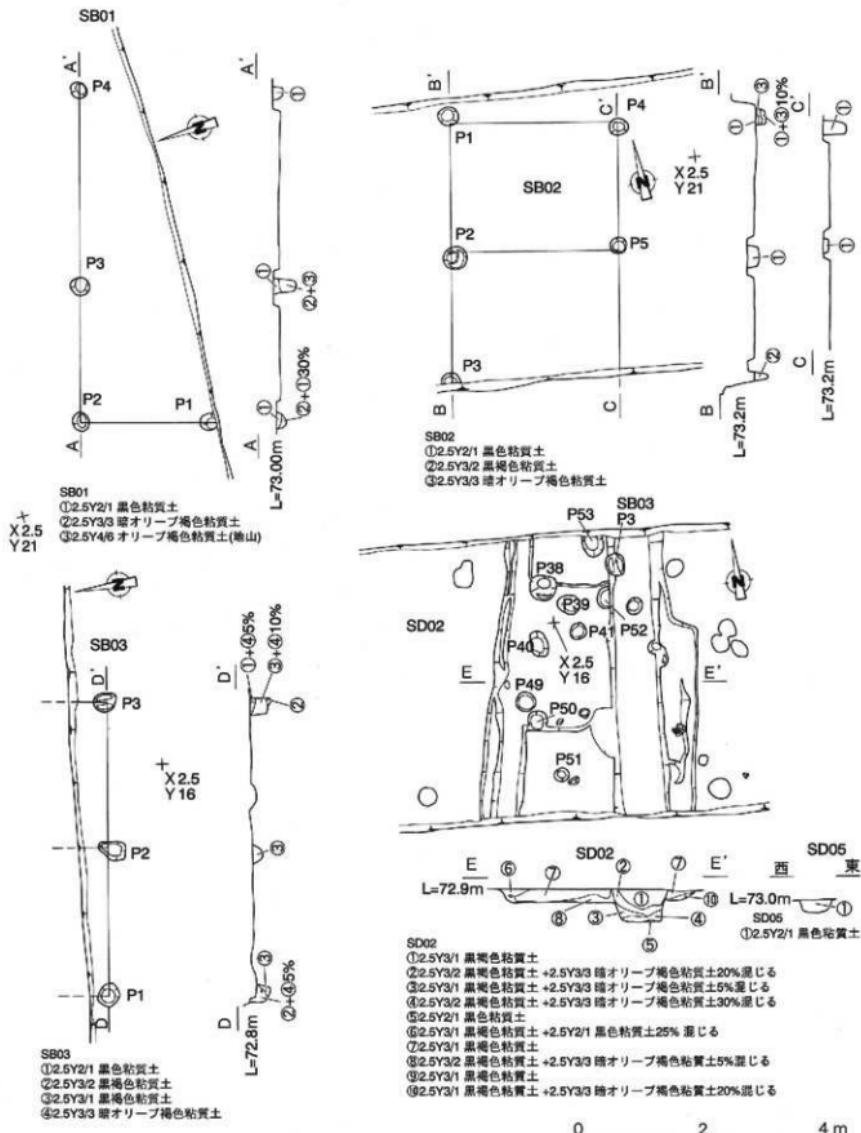
第8図 18地区(2)・21地区・22地区・出村Ⅲ遺跡16地区の遺構(1:60)



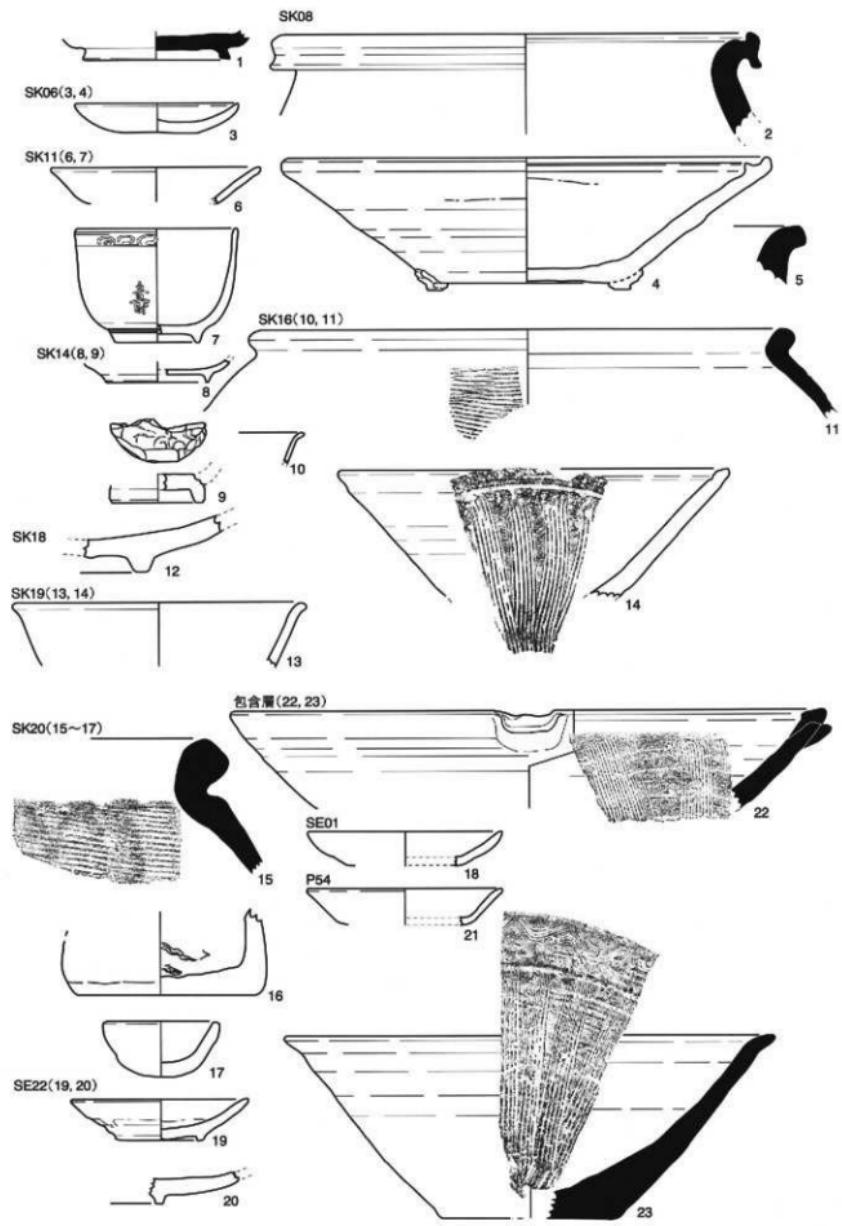
第9図 19地区の透構 (1:100, SK01とSD01は1:60)



第10図 13地区の構造 (SB01, SA01は1:80, SK05, 06, SD02～SD05は1:60)



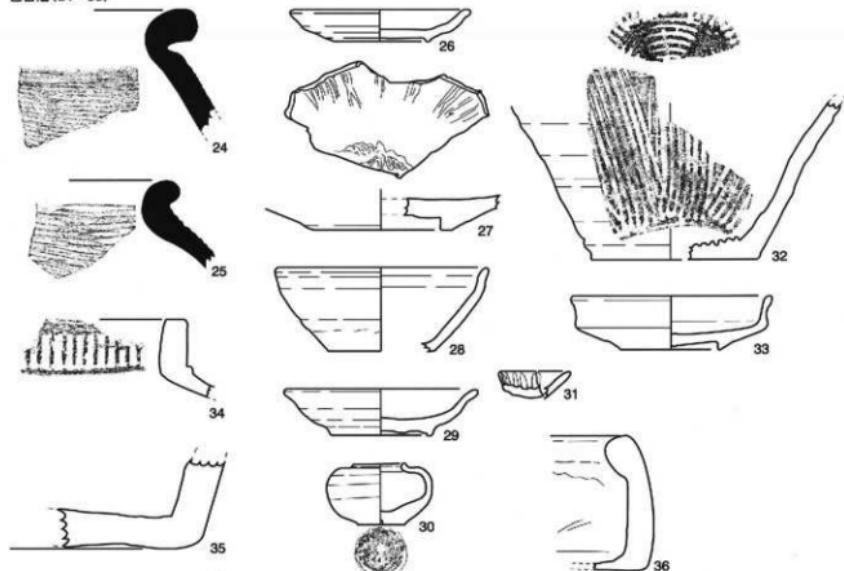
第11図 20地区の遺構 (1:80、SD05は1:60)



第12図 18地区の遺物(1)(11, 22, 23は1:4、そのほかは1:3)

0 20cm

包含層(24~36)



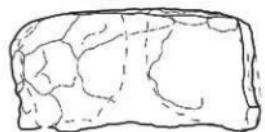
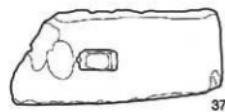
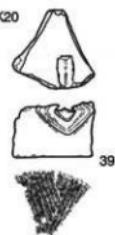
石製品
SK09



SK19



SK20

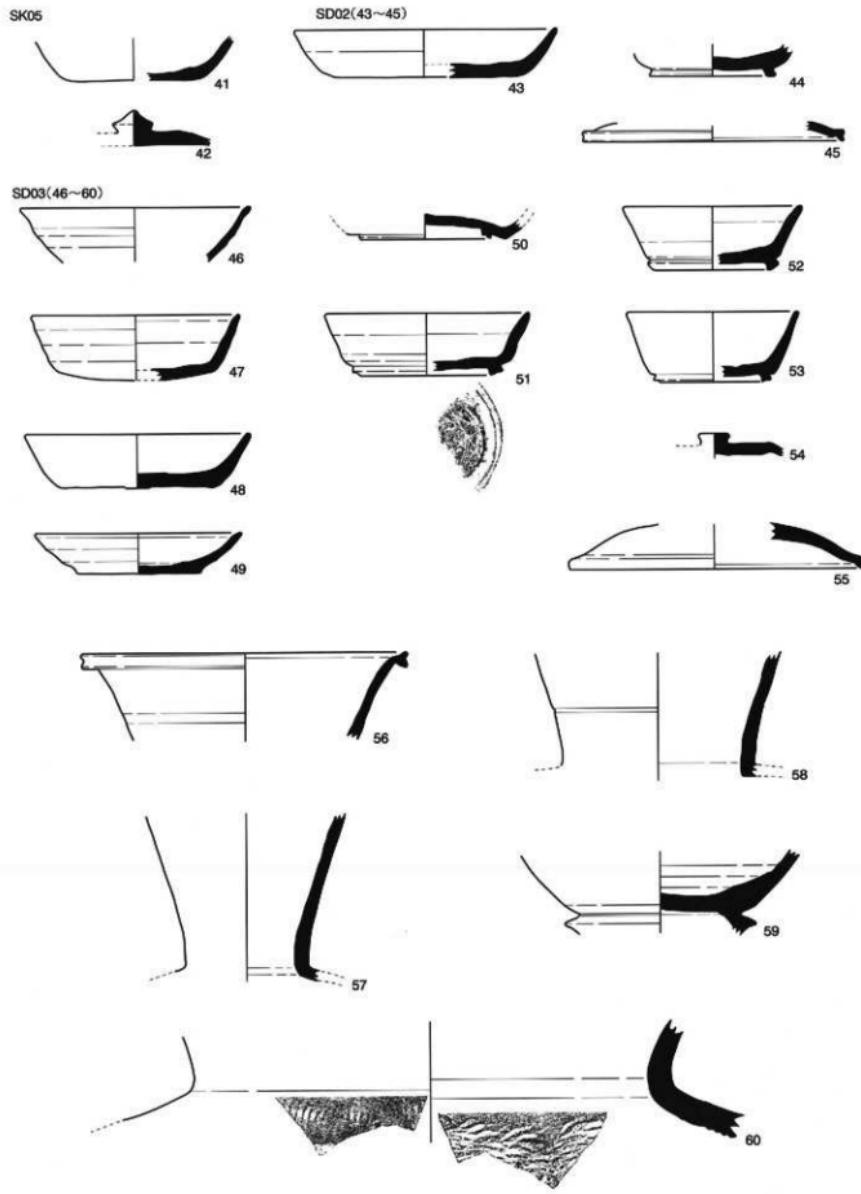


SK23



第13図 18地区の遺物(2)(24~36は1:3, 37~40は1:6)





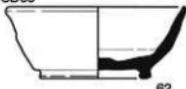
第14図 13地区の遺物(1)(1:3)

SD04(61,65~67)



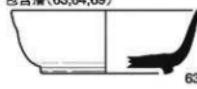
61

SD05



62

包含層(63,64,69)



63



64



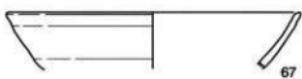
65



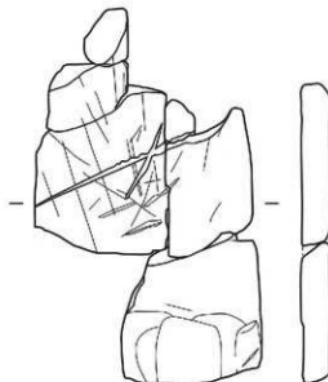
66



69



67

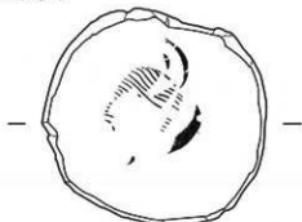


包含層

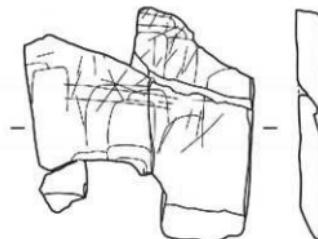
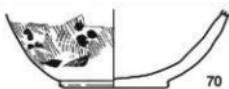


68

SD04(70,71)

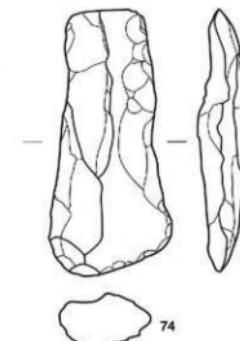
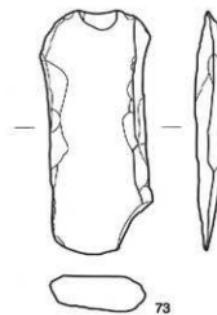
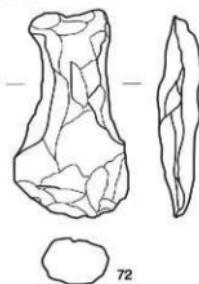


70

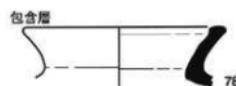
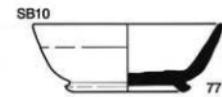
71
(1:4)

第15図 13地区の遺物(2) (1:3, 71は1:4)

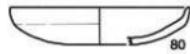
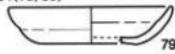
包含層(72~75)



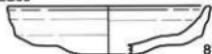
75



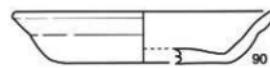
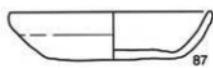
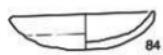
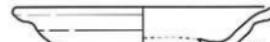
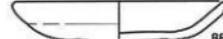
SB04(79, 80)



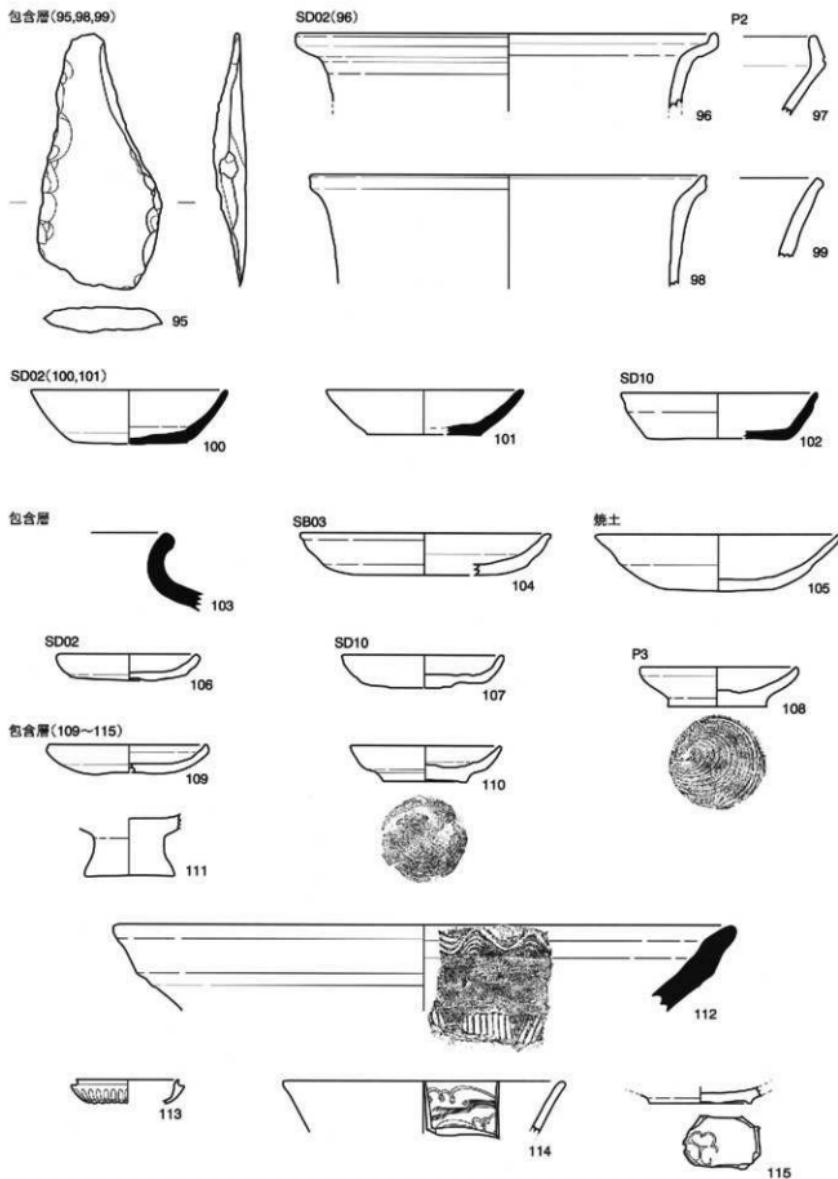
SB06



包含層(82~94)

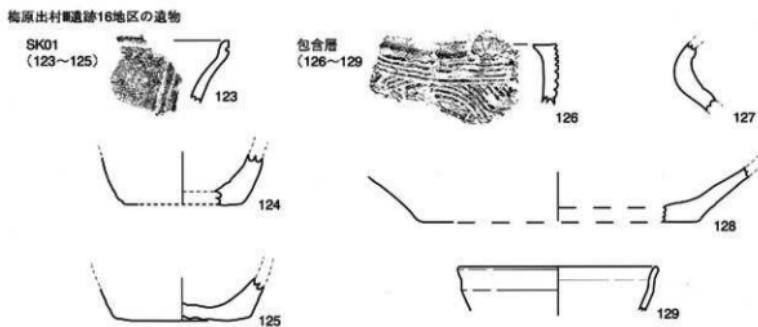
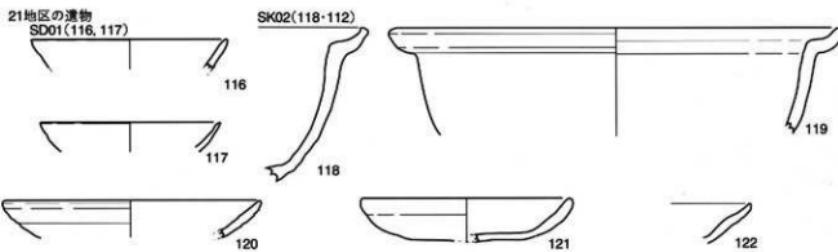


第16図 19地区の遺物(1:3)



0 20cm

第17図 20地区の遺物(1:3)

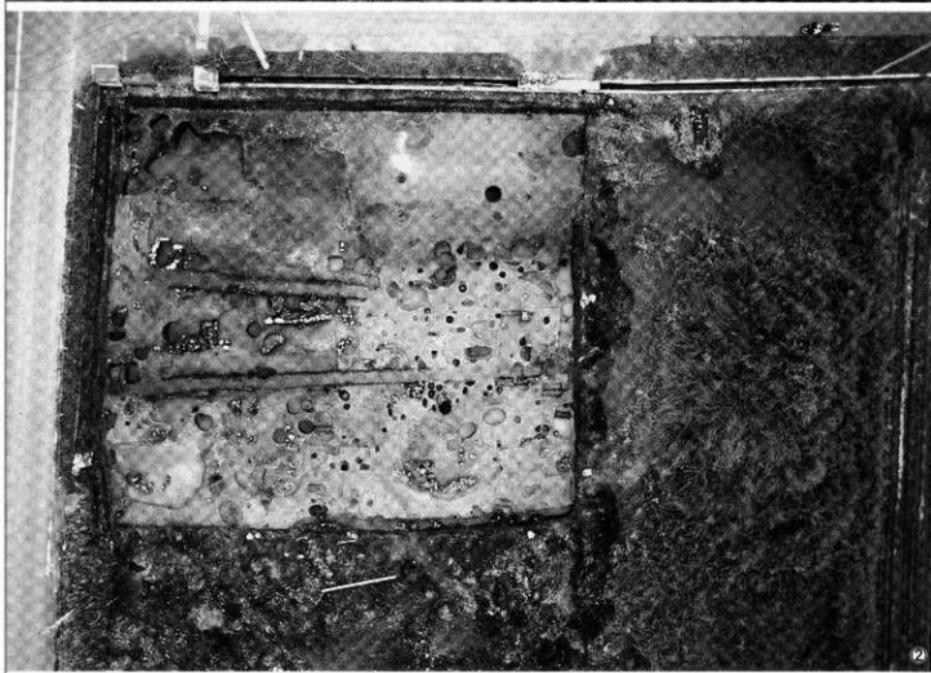


第18図 21地区・出村III 遺跡16地区の遺物(1:3)





①



②

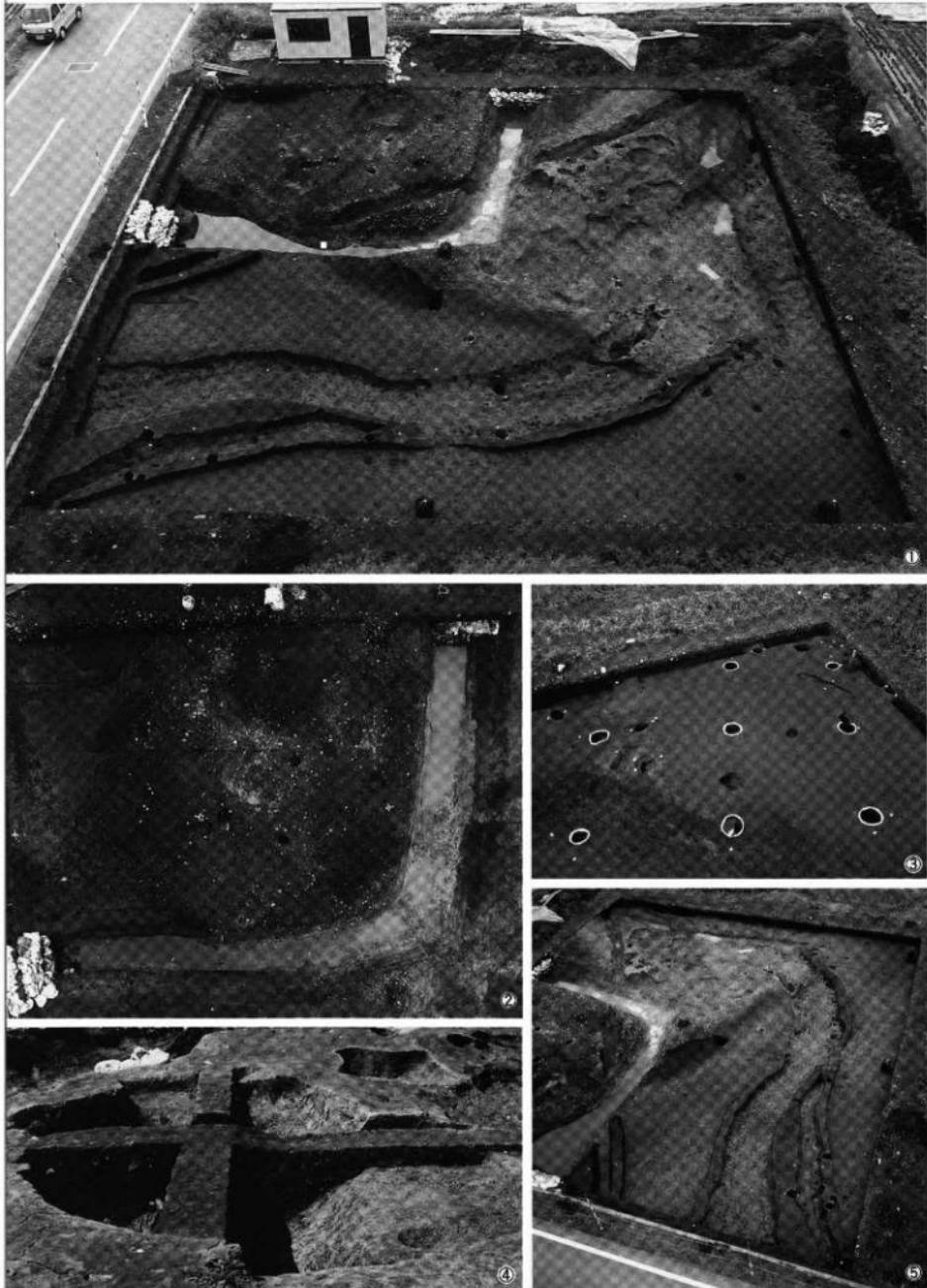
図版1 18地区の遺構(1)

1. 調査区遠景(東から) 2. 調査区全景



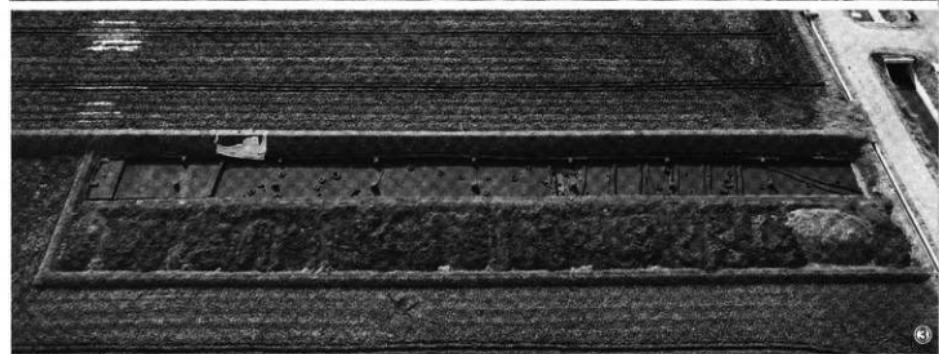
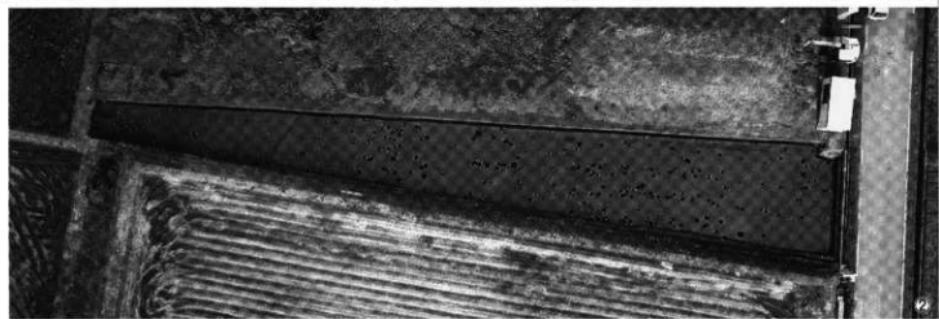
図版2 18地区の遺構(2)

1. SK09・10・11付近 2. SK17・18・19付近 3. SK18石列
4. SK08(南から) 5. SK10・20・23付近 6. SK20(東から)



図版3 13地区の遺構

1. 全景(東から) 2. SA01・SD04 3. SB01
5. SD02・SD03・SD05(南から) 4. SK05・06土層



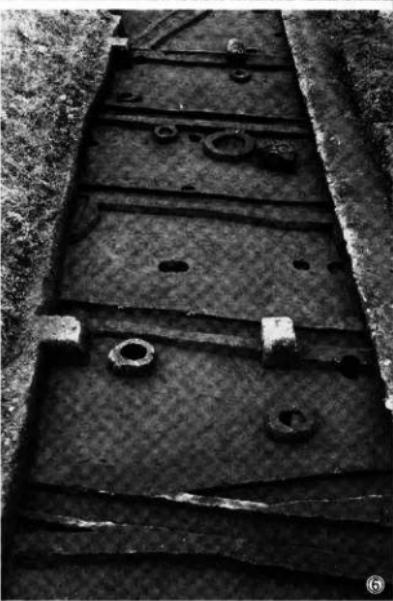
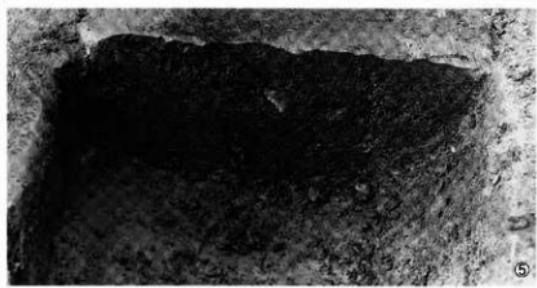
図版4 19地区・20地区の遺構

1. 速景（南から） 2. 19地区全景 3. 20地区全景



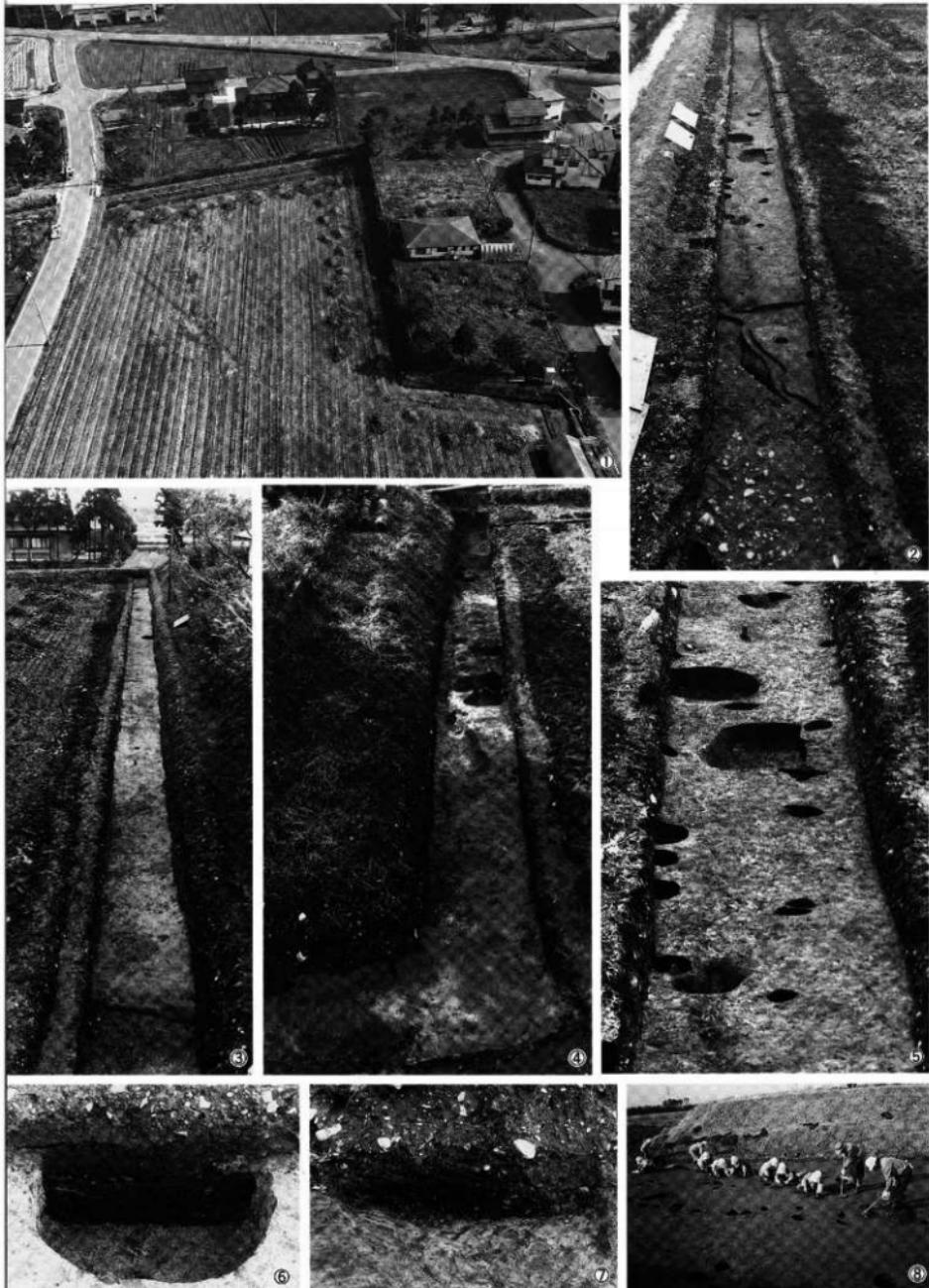
図版5 19地区の遺構

1. 全景（東から） 2. SB01～08（西から） 3. SB04柱穴 4. SB06・SB07柱穴
5. SB01～08 6. SK01（南から） 7. SD01土層



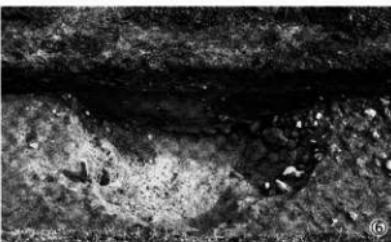
図版6 20地区の遺構

1. SD02・SD03～08・SD09・SD10（北から） 2. SB01・SB02
3. SD02（南から） 4. 焼土・遺物出土状況 5. SD05土層 6. SD04～SD09（西から）



図版7 21地区の遺構

- 1. 調査区全景（西から）
- 2. X11～X36部分（北から）
- 3. Y5～Y38部分（西から）
- 4. X0～X12部分（北から）
- 5. SB01（北から）
- 6. SK01土層
- 7. SD01土層
- 8. 作業状況



図版8 22地区・出村Ⅲ遺跡16地区の遺構

1. 22地区全景 2. Y12より東部分 3. 出村Ⅲ遺跡16地区・X22～X40部分
4. 16地区全景（北東から） 5. X22～X40部分（南西から） 6. SK01（西から） 7. SD01（西から）



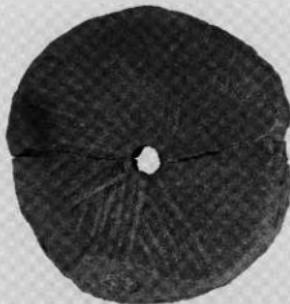
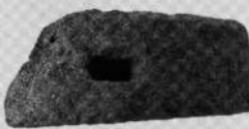
図版9 18地区出土遺物(1) (1:2)



圖版 10 18 地區出土遺物 (2) (1 : 2)



37



38

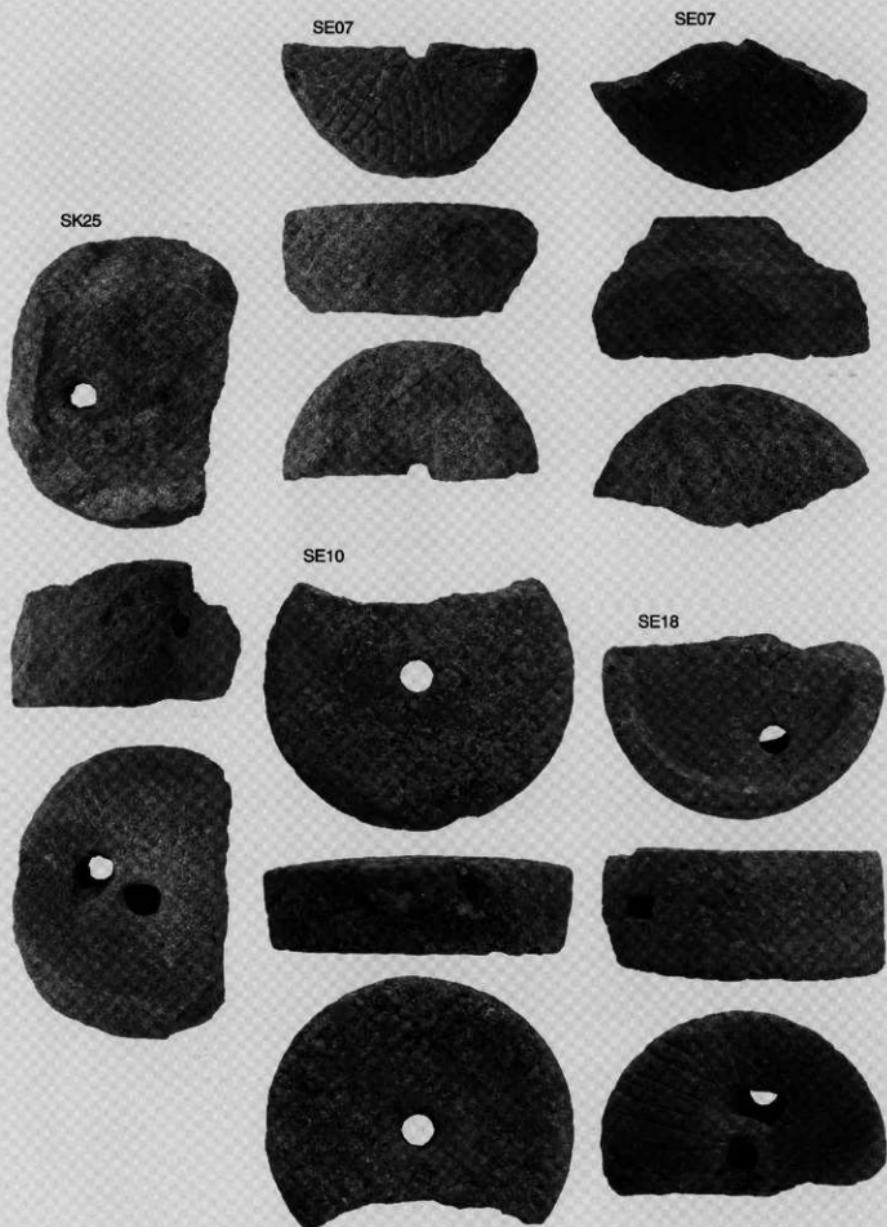


39 (1 : 4)



40 (1 : 4)

圖版11 18地區出土遺物(3) (1:5)



図版 12 18 地区出土遺物 (4) (1:5)



图版 13 13 地区出土遗物 (1) (1:2)



图版 14 13 地区出土遗物 (2) (1:2)

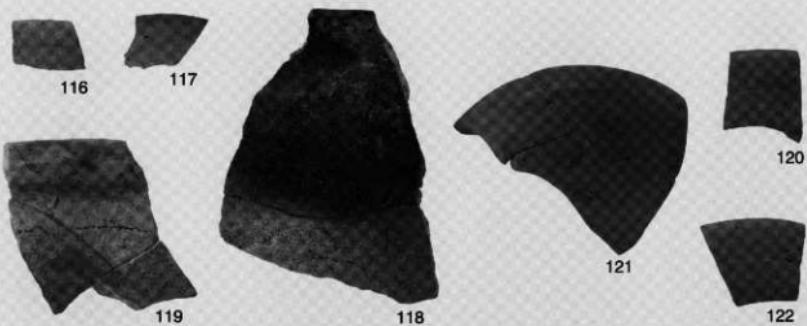


图版 15 19 地区出土遗物 (1:2)



图版 16 20 地区出土遗物 (1:2)

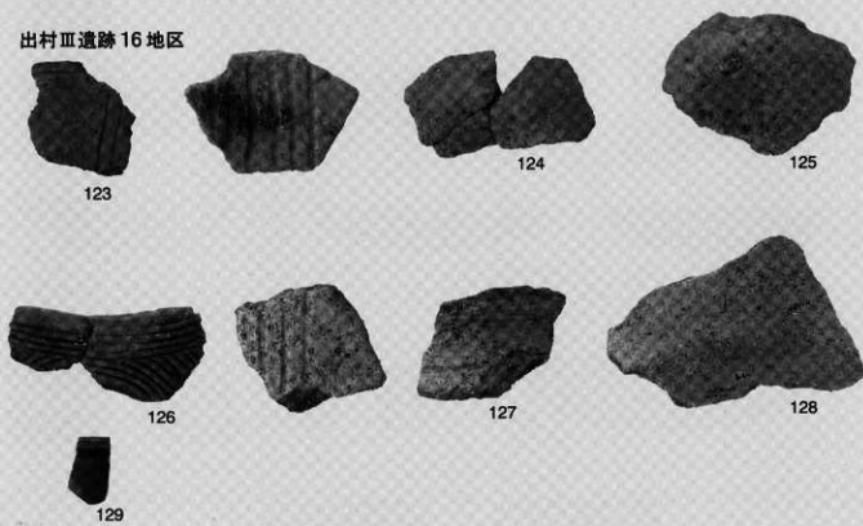
21 地区



22 地区



出村Ⅲ遺跡 16 地区



図版 17 21 地区・22 地区・出村Ⅲ遺跡 16 地区出土遺物 (1:2)

報告書抄録

| ふりがな | とやまけんふくみつまちうめはらごまどういせきさん・うめはらでもらいせきぐんさん | | | | | | | |
|----------------|---|-----------------------|----------------------------------|---------------|---|-------------------|------------------------|------|
| 書名 | 富山県福光町梅原胡摩堂遺跡Ⅲ・梅原出村遺跡群Ⅲ | | | | | | | |
| 副書名 | 県営低コスト化水田農業大区画は場整備事業（梅原地区）に伴う 埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(9) | | | | | | | |
| 編著者名 | 佐藤聖子、深田亞紀 | | | | | | | |
| 編集機関 | 富山県福光町教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒939-1692 富山県西礪波郡福光町荒木1550 TEL (0763) 52-1111 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦1999年3月23日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所 在 地 | コード | | 北 緯 | 東 緯 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | ° ° ° | ° ° ° | | | |
| 梅原胡摩堂 梅原山群Ⅲ | 富山県 福光町梅原 | 16421 | 180 | 36度33分 20秒 | 136度54分 20秒 | 980708 ~981130 | 1,937m ² | |
| | | 16421 | 181 | 36度33分 25秒 | 136度53分 53秒 | 981105 ~981130 | 80m ² | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 梅原胡摩堂 | 集落 | 縄文時代 古代 中世、近世 | 土坑、溝、ピット 掘立柱建物、土坑 井戸、溝、ピット | | 打製石斧、縄文土器 須恵器、土師器 中世土師器、珠洲、青磁、 白磁、瀬戸美濃、越中瀬戸 土師質土器、唐津、鉄浜、 ワイゴ羽口、漆器椀、 ひき臼、茶臼、 縄文土器 | | | |
| 梅原出村Ⅲ | 集落 | 縄文時代 弥生時代、古代 中世 | 土坑、溝、ピット | | 瀬戸美濃 | | | |

県営低コスト化水田農業大区画は場整備事業（梅原地区）に伴う

埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(9)

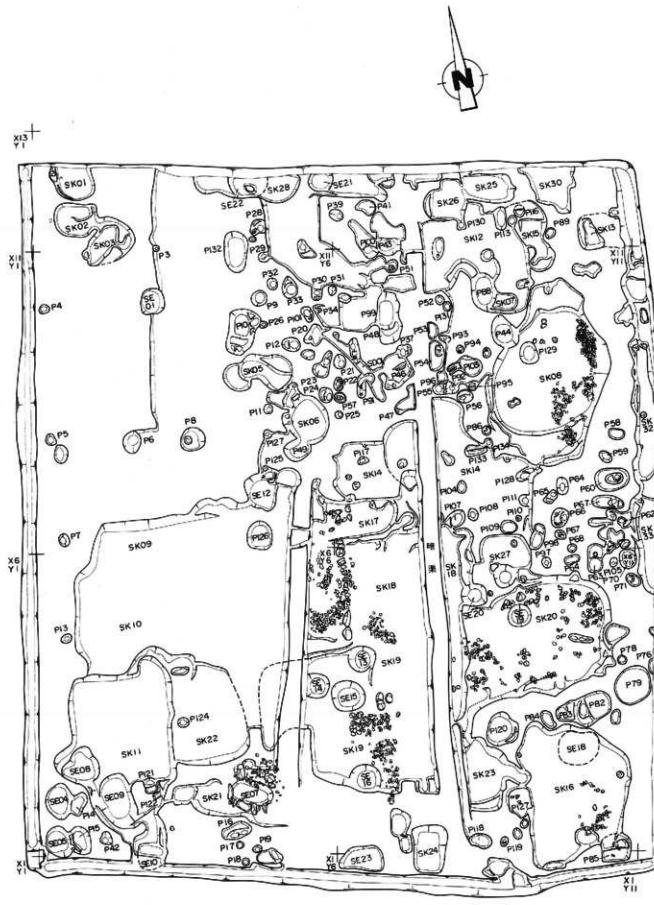
富山県福光町梅原胡摩堂遺跡Ⅲ・梅原出村遺跡群Ⅲ

平成11年3月23日

編集 福光町教育委員会

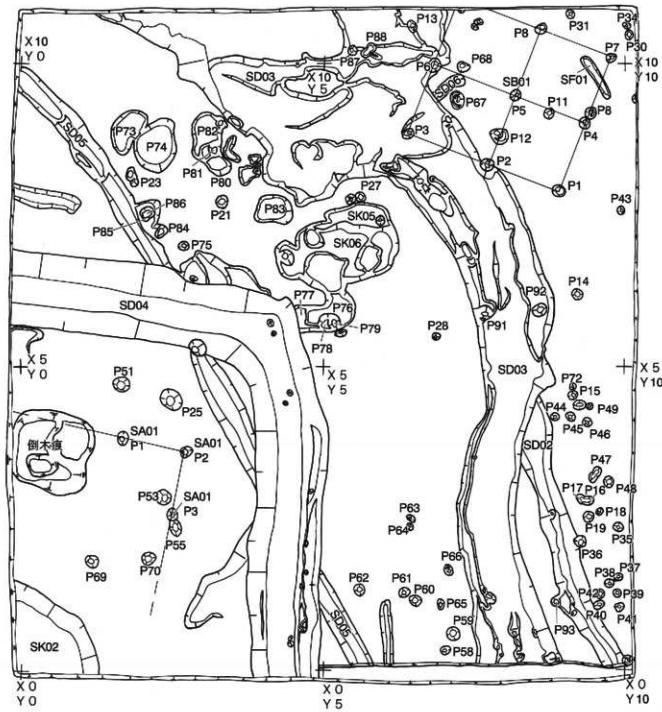
発行 福光町教育委員会

印刷 (株)ナカグ印刷



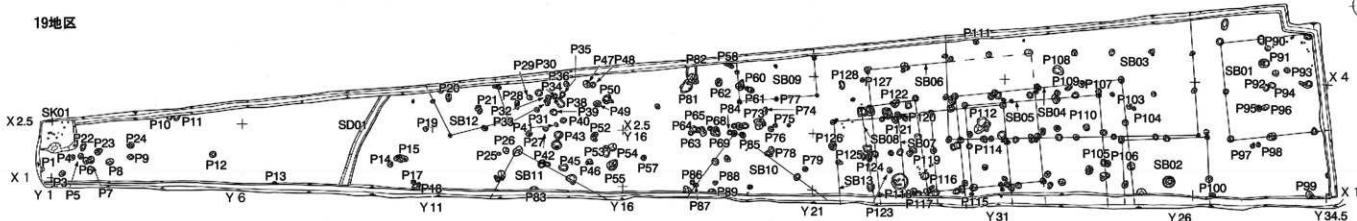
付図1 梅原胡摩堂遺跡18地区・遺構配置図

0 1 2 3 4 5 10 m

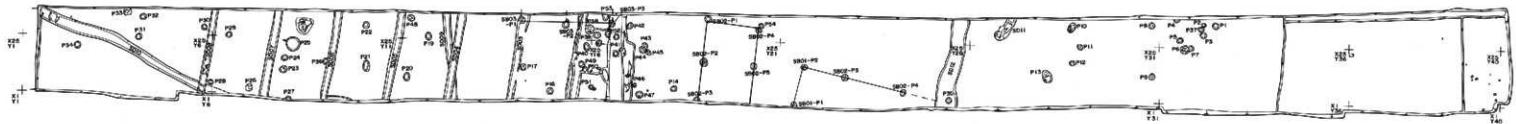


付図2 梅原胡摩堂遺跡13地区・造構配置図

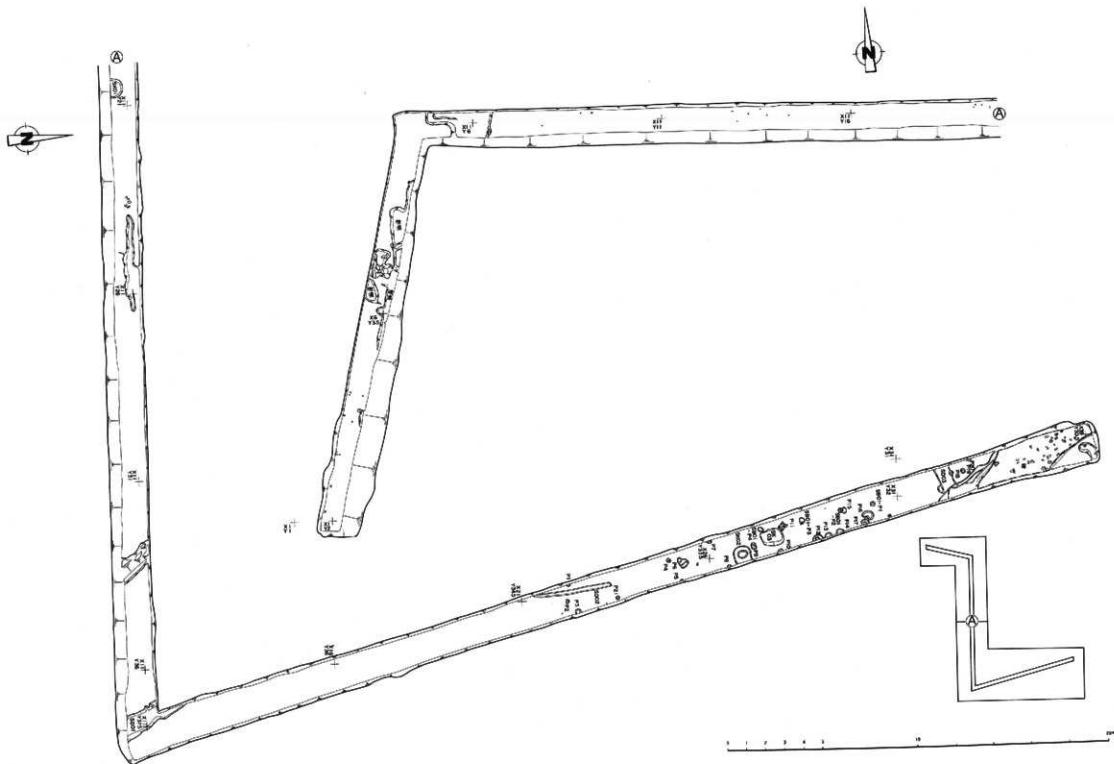
19地区



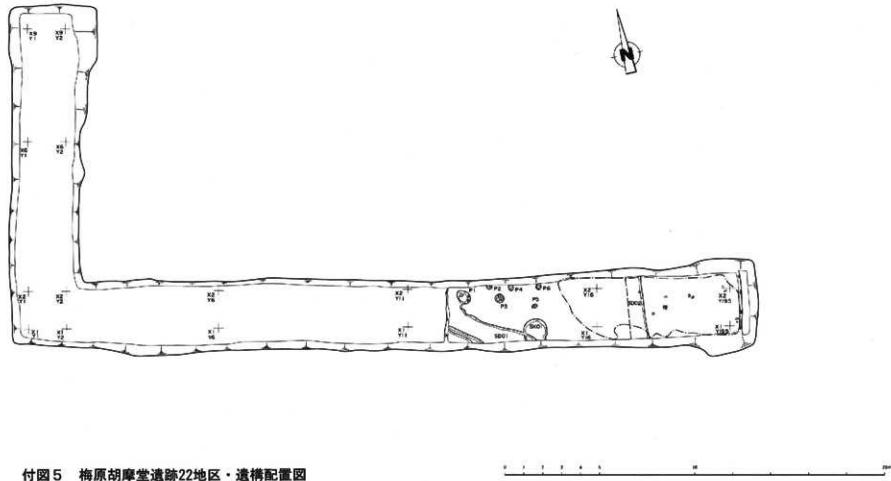
20地区



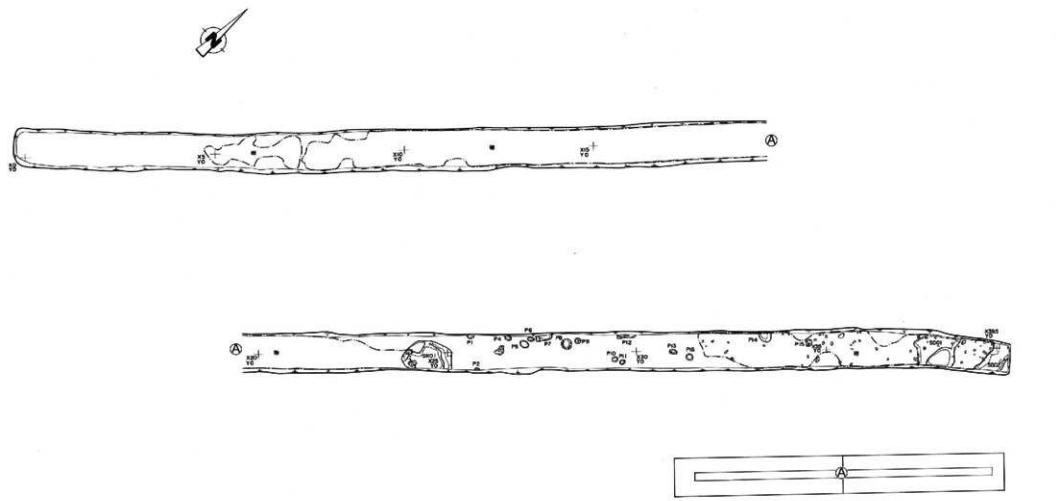
付図3 梅原胡摩堂遺跡19・20地区・造構配置図



付図4 梅原胡摩堂遺跡21地区・遺構配置図



付図5 梅原胡摩堂遺跡22地区・造構配置図



付図6 梅原出村Ⅲ遺跡16地区・遺構配置図

